

高校生は変わったのか(2)

— 1980年・1992年調査と比較して —

高校生が変わってきたといわれる。そこで1980年調査と1992年調査との対比のなかで高校生の意識の変化を明らかにしようとした。約20年の間に高校生のどのような側面が変化したのであろうか。

◆調査概要

対 象 ● 関東・中部・九州の高校6校(私立1校・公立5校)の1～3年生
 時 期 ● 2003年6月～7月
 方 法 ● 学校通しによる質問紙調査
 サンプル数 ● 1,000名(男子441名、女子559名)

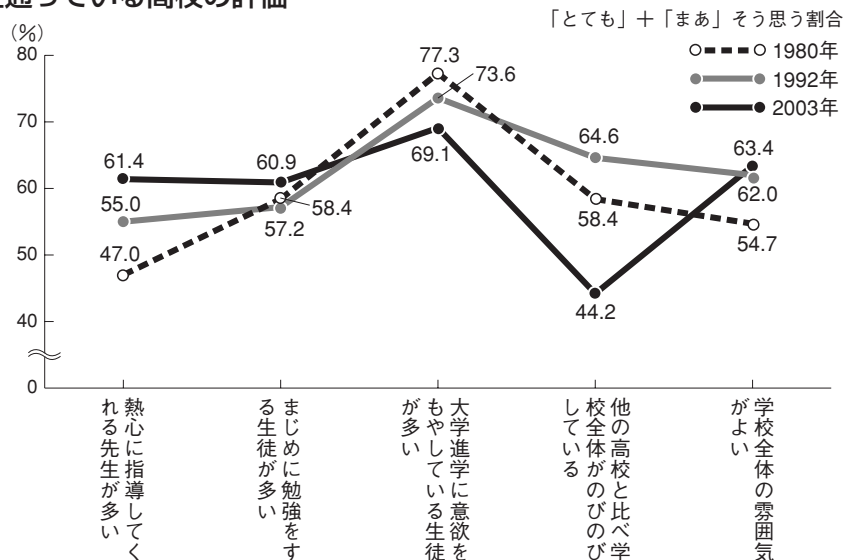
TOPIC 1

高校の評価

(⇒p.10)

— 学校の雰囲気はよくなったが、大学進学への意欲が低下 —

■現在通っている高校の評価



20年の間に、①学校の雰囲気がよくなり、②熱心に指導してくれる先生が増えた。しかし、③大学進学に意欲をもやす生徒が減少気味という変化がみられる。

TOPIC

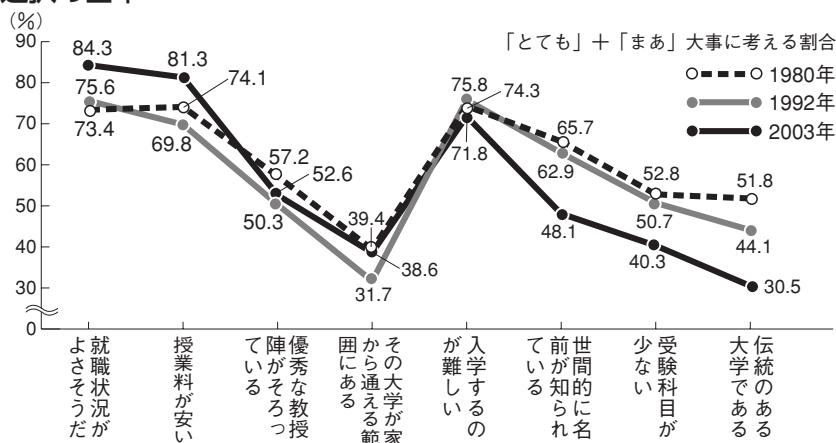
2

大学選択の基準

(⇒p.16～17)

—大学の伝統や名声より、就職状況のよさ—

■大学選択の基準



「伝統のある大学である」や「世間的に名前が知られている」よりも「就職状況がよさそう」を大学選択の基準として重視する気持ちが高校生の中に強まっている。伝統や知名度とはかなり距離をおき、就職状況のよさや授業料が安いことなど実利的な理由を重視した大学選択をしている傾向がみられる。

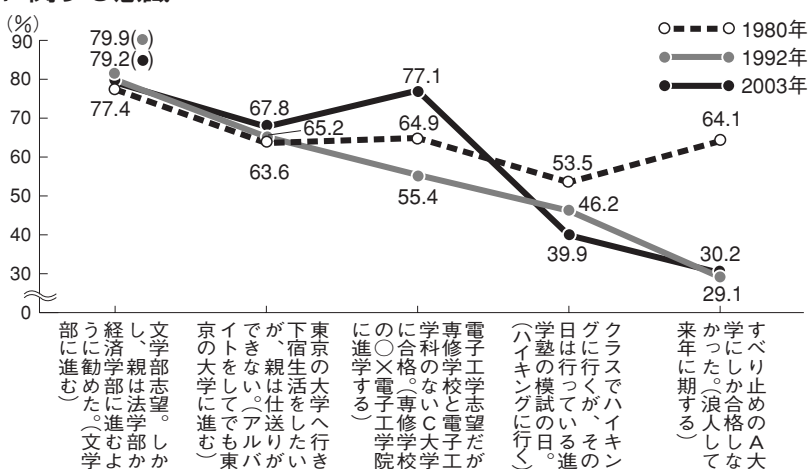
TOPIC

3

自分らしい進路を考えたい

(⇒p.18～19)

■進路に関する意識



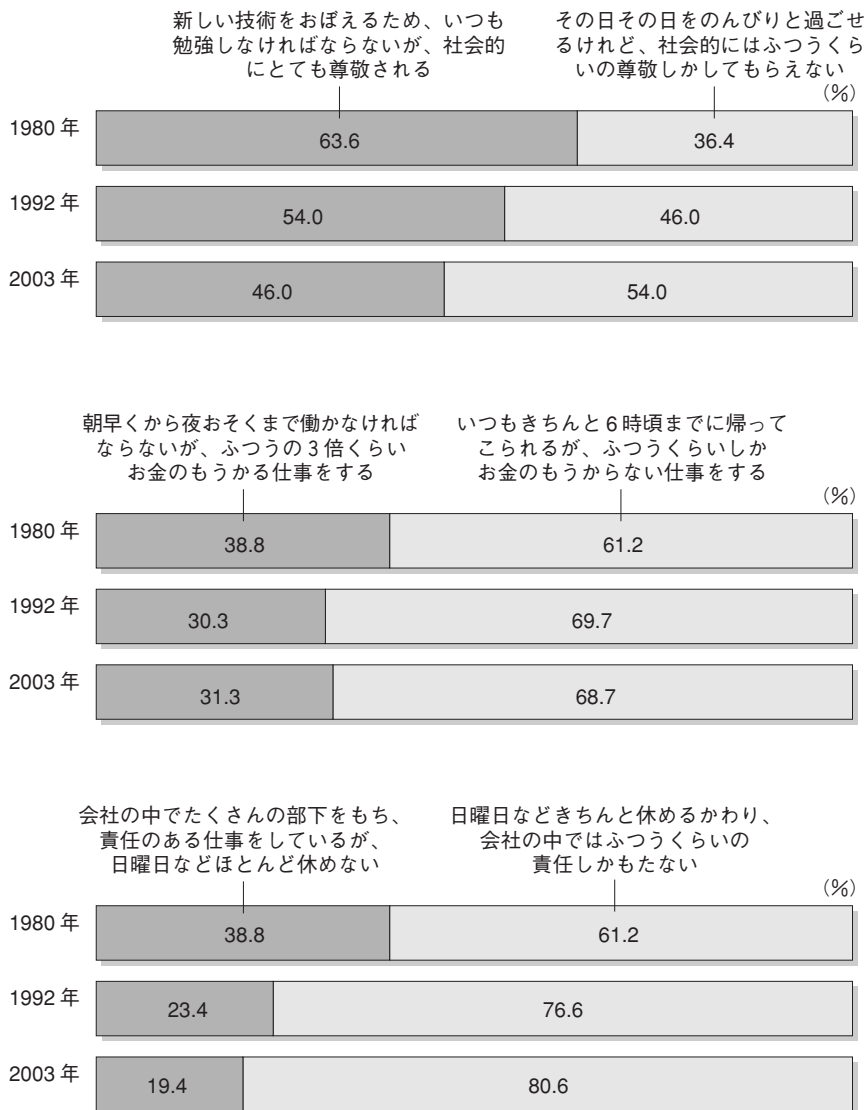
大学進学にあたり自分の希望を優先している傾向がうかがえる。「親が法学部や経済学部を勧めても文学部志望なら自分の気持ちを大事にする」は、8割弱の高い割合で推移し「志望学科がない大学より、希望する学科のある専修学校へ進みたい」という気持ちが強まっている。

TOPIC 4

将来の仕事選択 —自分の暮らしを大事にしたい—

(⇒ p.26)

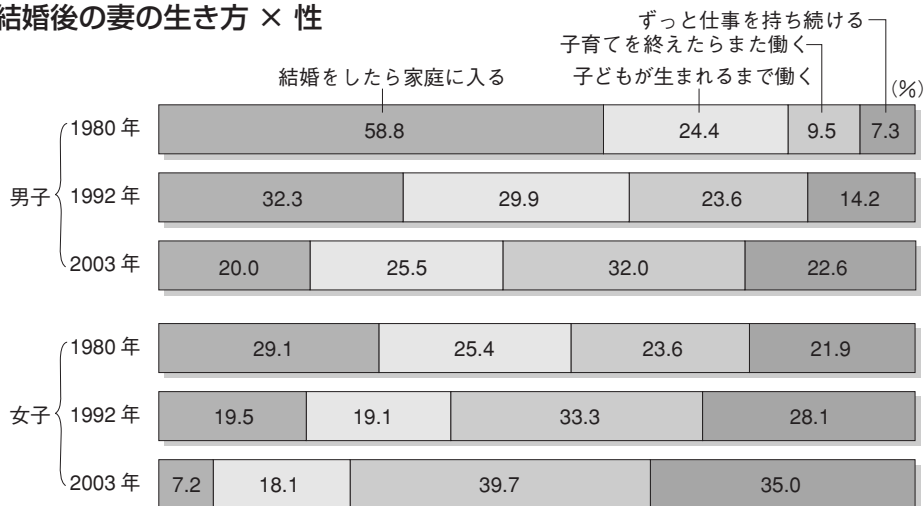
■仕事選択の基準



「新しい技術をおぼえるため、いつも勉強しなければならないが、社会的にとっても尊敬される」仕事と「その日その日をのんびりと過ごせるけれど、社会的にはふつうくらいの尊敬しかしてもらえない」仕事では、のんびりと仕事派が増加してきている。また、「日曜日などきちんと休めるかわり、会社の中ではふつうくらいの責任しかもたない」仕事を望む割合が高くなっている。仕事の選択に関しても私的生活を優先したいという意識が強まっている。

TOPIC 5 専業主婦のいる家庭から 共働きの家庭へ (⇒p.36～37)

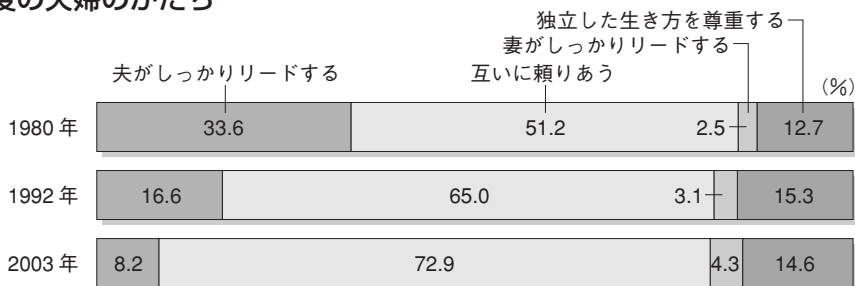
■結婚後の妻の生き方 × 性



結婚後の妻の生き方について「結婚したら家庭に入る」「子どもが生まれるまで働く」といった専業主婦のいる暮らしを望んだ割合は、1980年調査では、男子83.2%・女子54.5%であった。しかし2003年調査では、その割合は男子45.5%・女子25.3%に減少している。20年の間に高校生が抱く家庭像が「専業主婦のいる家庭から共働きの家庭へ」と変化している。

TOPIC 6 結婚後の夫婦のかたち (⇒p.37) —「夫がリードする」から「頼りあう」へ—

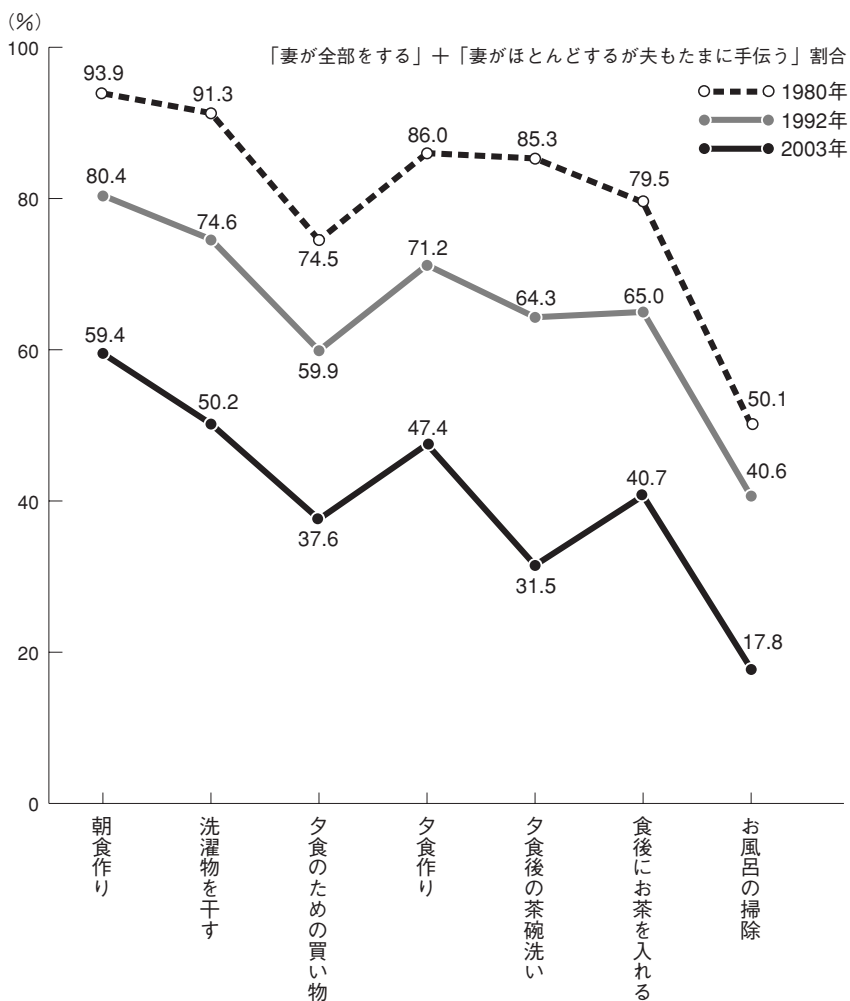
■結婚後の夫婦のかたち



「夫がしっかりリードする」夫婦を望む割合は、1980年33.6%→1992年16.6%→2003年8.2%と減少している。それに対して「互いに頼りあう」夫婦を望む割合は、1980年51.2%→1992年65.0%→2003年72.9%に増加している。高校生の抱く理想の家庭像は、「専業主婦の妻がいて夫がしっかりリードするかたち」から「夫婦が共に働き、互いに頼りあって暮らすかたち」へ変化している。

TOPIC 7 「家事は妻が担う」から「夫婦で分担する」へ (⇒p.38)

■家事の分担



「洗濯物を干す」のは妻の役割と思う割合は、1980年91.3%→1992年74.6%→2003年50.2%と、約20年の間に41.1ポイントも減少している。1980年代には、家事は妻が担うのが一般的であった。しかし、2003年になると「妻が担う」割合は全ての項目において6割以下にとどまり、夫婦で協力して家事を分担するかたちを多くの高校生は望んでいる。

まとめ

自分の気持ちや私生活を 優先した将来選択

今回の調査では、「この20年間に高校生が変わったのか。そして変わったとしたらどのように変わったのか」を明らかにすることを目的としていた。その結果、①進学に関しては、「自分を生かせる学部を選びたい」、②仕事に関しては、「私生活を優先させたい」という気持ちが強まり、③将来の家庭に関しては、「お互いの気持ちを尊重して幸せな家庭を築きたい」という傾向が目につく。このように、高校生の間に「自分の気持ちを優先させる」態度が強まっている。

高校生の「自分らしく生きたい」という気持ちは理解できる。その反面、「自分らしくは簡単でない。身勝手すぎる」というおとなたちの声が聞こえてくる思いがする。「自分らしさ」が「個性的」を意味するようになるのか、それとも単なる「身勝手」にすぎないのか。高校生自身の行動が問われているように思う。

第1章

調査対象の特質と高校生活

武内 清

本章では、最初に調査の概要を説明する。そして、次に現代の高校生の学校生活の様子を、さまざまな要因との関連、および時系列的変化の中で考察する。

1. 調査対象校、調査対象の特質

1) 調査対象校の特質

今回の調査対象校は、6校である。各校の特質、および調査の回答数を表1-1に示した。

公私の内訳は公立5校、私立1校である。地域別では、九州地区3校、中部地区2校、関東地区1校である。

学校創立年は、明治時代が2校、大正時代1校、

昭和20年代1校、昭和30年代1校、昭和60年代1校と、伝統校が多い。

4年制大学進学希望率は、調査対象者全体の平均が81.4%で、最低でも69.2%と、大学進学率の高い学校が調査対象校になっている。高校生の意識や生活は、大学進学率が示す高校ごとの違いは大きいですが、今回の調査対象校はいずれも、4年制大学への進学希望率が高い学校である（過去の調査対象校も同様である）。

2) 調査対象生徒数の割合

各年度の調査対象生徒のサンプル構成を、表1-2に掲載しておく。

それぞれの時点（1980年、1992年、2003年）の

■表1-1 調査対象校の特質

	全体	A校	B校	C校	D校	E校	F校
設置形態		私立	公立	公立	公立	公立	公立
地 域		関東	中部	中部	九州	九州	九州
創立年		昭和20年代	明治	昭和30年代	大正	昭和60年代	明治
4年制大学進学希望率（Q6）	81.4	69.2	90.4	83.3	69.7	89.1	87.9
回答数（全体）	1,000	109	219	217	228	111	116
男 子	441	42	121	93	110	48	27
女 子	559	67	98	124	118	63	89
1 年	419	109	78	77	75	40	40
2 年	295	0	71	71	79	33	41
3 年	286	0	70	69	74	38	35

■表1-2 年次別、回答構成比

		(%)		
		1980年	1992年	2003年
性 別	男子	68.2	55.9	44.1
	女子	31.8	44.1	55.9
学年別	1 年	30.8	46.5	41.9
	2 年	23.0	47.5	29.5
	3 年	46.3	6.0	28.6

調査対象者の、属性に多少偏りがある。

1980年は、男子と3年生の回答が多い。

1992年は男子が多少多く、1年生と2年生の回答が多く、3年生が少ない。

2003年は、女子が多少多く、1年生の回答が多い。

したがって、男女や学年によって偏りのある回答に関しては、性別・学年別にみていく必要がある。

3) 調査対象年、比較データ

今回の調査は2003年6月～7月に実施し、過去2回の調査データと比較し、高校生の生活と意識の時代的变化を追う。

比較する過去のデータは、「1980年調査」(『モノグラフ・高校生』vol.1、1979年実施、ただし「家庭像」の項目は『モノグラフ・高校生』vol.3、1981年実施)と「1992年調査」(『モノグラフ・高校生』vol.36、1992年実施)である。

この20年(「1980年調査」)、そして10年(「1992年調査」)の間で、高校生の生活と意識はどのように変化してきたのであろうか。

2. 高校生活

1) 部活動

① 現在の部活動への加入状況

高校生にとって部活動は、授業・クラスと並んで、重要な場である。そこでは仲間と共同で自分の好きな活動に打ち込み、自分の能力や体力の限界へ挑戦し、クラスを超えた人間関係を結ぶ場である。このように高校生が部活動に参加する人間形成的意義は大きい。

2003年調査で、部活動に「今も在籍し、積極的

に活動している」は62.2%と6割である。そして「以前参加したが、今は入っていない」が18.2%、「形だけ在籍しているが、あまり活動していない」が5.6%となっている。「入部したことはない」は14.0%(男子12.2%、女子15.4%)で、参加率は8.5割におよぶ。

男女別にみると、「今も在籍し、積極的に活動している」は男子63.9%、女子60.8%と男子に3.1ポイント多い。「以前参加したが、今は入っていない」(男子18.4%、女子18.1%)、「形だけ在籍しているが、あまり活動していない」(男子5.4%、女子5.7%)には、男女差はない。

学年別にみると、「今も在籍し、積極的に活動している」は1年生に多く、学年の上昇とともに減少する(1年75.9%>2年63.4%>3年40.9%)。そして「以前参加したが、今は入っていない」が学年の上昇とともに増加する(1年6.7%<2年11.5%<3年42.0%)。3年生で半数近くが部活動をやめるのは受験勉強のためであろう。

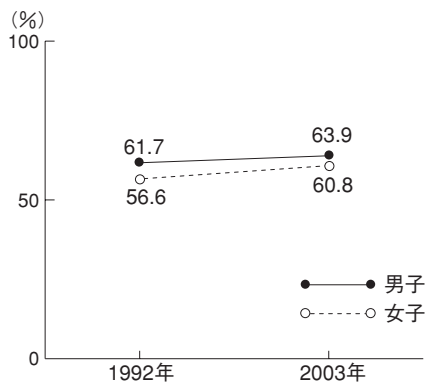
② 部活動参加の時系列比較

過去と比較して、高校生の部活動への参加は、増えているのであろうか、減少しているのであろうか。比較のデータのある10年前(1992年調査)と比較してみよう。

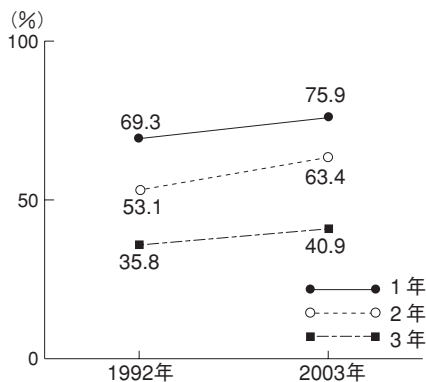
部活動に「今も在籍し、積極的に活動している」積極的活動の割合は、1992年59.4%→2003年62.2%と2.8ポイント微増している。

部活動への積極的参加の割合を性別・学年別に時系列でみると、図1-1、図1-2のように、どの属性でも、微増していることがわかる(男子2.2ポイント増、女子4.2ポイント増)。この10年間で、高校生の部活動への積極的参加は、わずかながらであるが増加している。

■図1-1 部活動への積極的参加 × 性



■図1-2 部活動への積極的参加 × 学年



図には示さなかったが、10年前と比べ、3年生では、「形だけ在籍しているが、あまり活動していない」が減少し（1992年30.7%→2003年3.8%）、「以前参加したが、今は入っていない」が増えている（1992年26.4%→2003年42.0%）。

③ 参加部活動の種類

運動部と文化部の比率は、2003年調査の全体で、運動部70.8%、文化部28.5%と、7対3の比率で運動部への参加が多い。

男女別でみると、運動部は、男子の87.2%、女子の57.5%と男子に優位になっている。逆に文化部は、女子の41.6%、男子の12.4%と女子に優位になっている。別の見方をすれば、男子の運動部対文化部の比率は9対1であり、女子の同比率は6対4と、運動部優位が男子では圧倒的で、女子ではやや優位という結果である。

10年前（1992年）の数字をみても、この傾向は変わらない（全体では運動部70.2%、文化部28.7%と、7対3の比率。男女別では、運動部は男子81.5%、女子55.1%。文化部は女子43.4%、男子17.7%。男子の運動部対文化部の比率は8対2、女子の同比率は5対4）。

2) 通っている高校や生徒に対する評価

① 最近の高校・生徒評価

通っている高校や生徒に関して5つの項目を、5段階（とても・まあそう思う、半分半分、あまり・ぜんぜんそう思わない）で尋ねた。

2003年の全体のデータで、「とてもそう思う」と「まあそう思う」という肯定的評価を多い順に並べ

ると、「大学進学に意欲をもやしている生徒が多い」（69.1%）、「学校全体の雰囲気がよい」（63.4%）、「熱心に指導してくれる先生が多い」（61.4%）、「まじめに勉強をする生徒が多い」（60.9%）、「他の高校と比べ学校全体がのびのびしている」（44.2%）と、「のびのびしている」を除き、どの項目の肯定率も6割以上である。今の高校が雰囲気はよく、先生も指導熱心で、生徒はまじめに勉強し、大学進学に意欲をもやしているものが多いと、生徒が評価していることがわかる。

男女別でみると、「熱心に指導してくれる先生が多い」が、男子56.9%に対して、女子64.9%と多く、男子に比べ女子の先生に対する評価が高いことがわかる。

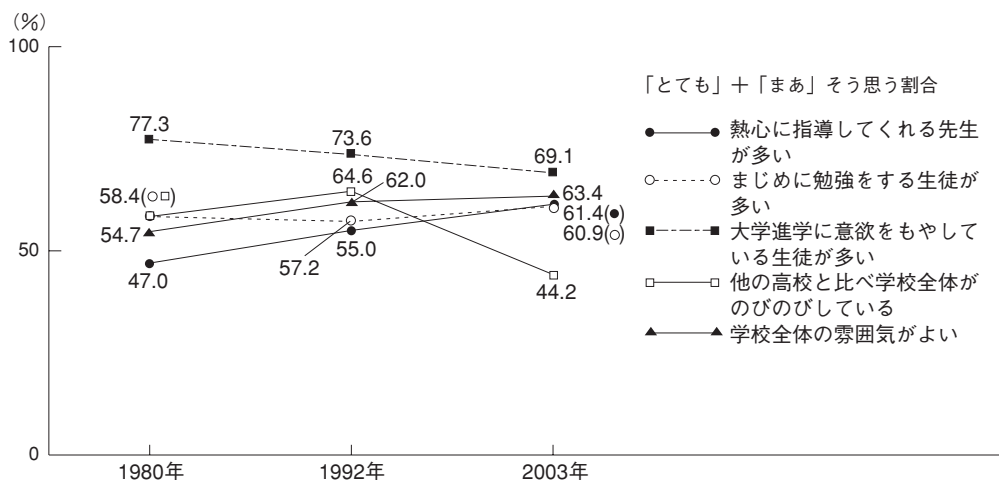
学年別でみると、「まじめに勉強をする生徒が多い」は、1年生63.2%、2年生64.8%、3年生53.5%と上の学年ほど少なくなる。

② 高校・生徒評価の時系列比較（図1-3）

A 「熱心に指導してくれる先生が多い」が増えている（20年間で14.4ポイント増；1980年47.0%→1992年55.0%→2003年61.4%）。10年前（1992年）と比べ、3年生（15.8ポイント増）、2年生（14.3ポイント増）、女子（4.8ポイント増）の増加が目立つ。男子では減っている（5.9ポイント減）。

B 「他の高校と比べ学校全体がのびのびしている」が減少している（20年前より14.2ポイント減；1980年58.4%→1992年64.6%→2003年44.2%）。10年前と比べ、3年生（31.1ポイント減）、女子（23.9ポイント減）の減少が目立つ。

■図1-3 現在の高校への評価



C 「学校全体の雰囲気がよい」は増加している（20年前より8.7ポイント増；1980年54.7%→1992年62.0%→2003年63.4%）。10年前と比べ、2年生（6.4ポイント増）で増加している。

D 「まじめに勉強をする生徒が多い」は、20年間でほとんど変わらない（20年前より2.5ポイント増；1980年58.4%→1992年57.2%→2003年60.9%）。10年前と比べ、2年生（16.8ポイント増）と3年生（12.2ポイント増）でまじめに勉強する生徒が増加し、1年生（5.2ポイント減）で減少している。

E 年々「大学進学に意欲をもやしている生徒が多い」が減少しているのが目立つ（20年間で8.2ポイント減；1980年77.3%→1992年73.6%→2003年69.1%）。10年前（1992年）と比べ、1年生（8.3ポイント減）、女子（5.4ポイント減）の減少が目立つ。

全体をまとめると、生徒の通う学校や生徒に対する評価は、次のようである。

学校全体の雰囲気はいい。しかし、熱心に指導してくれる先生が増えて、少し学校が窮屈に感じる。みんなは先生に言われたことは守り、まじめに勉強しているが、大学入試はやさしくなっているし、大学受験に必死になることはない。マイペースで学校生活を送りたい。

3) 高校生活満足度

① 現在の高校生活満足度

高校生活への満足度を、4項目（現在の学業成績、友だちとの関係、先生との関係、放課後の余

暇の生活）にわたって、6段階（とても・かなり・やや満足している、やや・かなり・とても不満足）で尋ねた。

「とても満足している」「かなり満足している」という強い満足派の割合は、2003年の全体のデータでは、多い順に、「友だちとの関係」（46.5%）、「放課後の余暇の生活」（28.2%）、「先生との関係」（17.1%）、「現在の学業成績」（4.5%）となっている。

インフォーマルな部分（友だち、放課後）への満足度は高く、フォーマルな部分（成績、先生との関係）への満足度は低い。

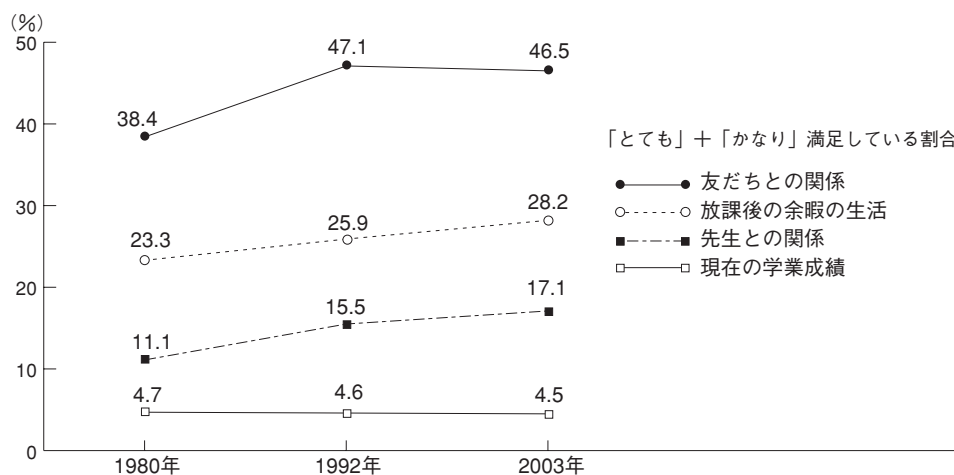
② 高校生活満足度の時系列比較

「とても満足している」「かなり満足している」という強い満足派の割合を全体の時系列でみたのが、図1-4である。

どの年度でも、インフォーマルな部分（友だち、放課後）への満足度は高く、フォーマルな部分（成績、先生との関係）への満足度は低いという傾向は変わらないが、20年前、10年前と比べ、「放課後の余暇の生活」（20年前より4.9ポイント増）と「先生との関係」（20年前より6.0ポイント増）の満足度が高まり、「友だちとの関係」と「現在の学業成績」への満足度は変化していないことがわかる。

時代とともに、高校生の勉強以外のさまざまな活動の場が増えたことと、先生たちが生徒への配慮をするように努力していることのあらわれであろう。

■図1-4 高校生活満足度



③ 教科の成績と高校生活満足度

2003年のデータで、高校生活の各分野への高い満足度（「とても」＋「かなり」＋「やや」満足している）と英語、数学、国語の成績との関連をみたのが、図1－5である。

「現在の学業成績」への満足度と各教科の成績との相関は、どの教科でも高い。「トップの方」と「うしろの方」で「現在の学業成績」への満足度の差は、英語で64.4ポイント、数学で57.0ポイント、国語で48.4ポイントある。この3教科（英語、数学、国語）の成績は、学業成績への満足度を大きく左右する。

「先生との関係」と各教科の成績との関係は多少ある。「トップの方」と「うしろの方」で「先生との関係」への満足度の差は、英語で27.7ポイント、数学で11.6ポイント、国語で16.5ポイントである。先生が生徒の教科の成績にかかわりなく生徒に接していれば、この差は小さくなる。

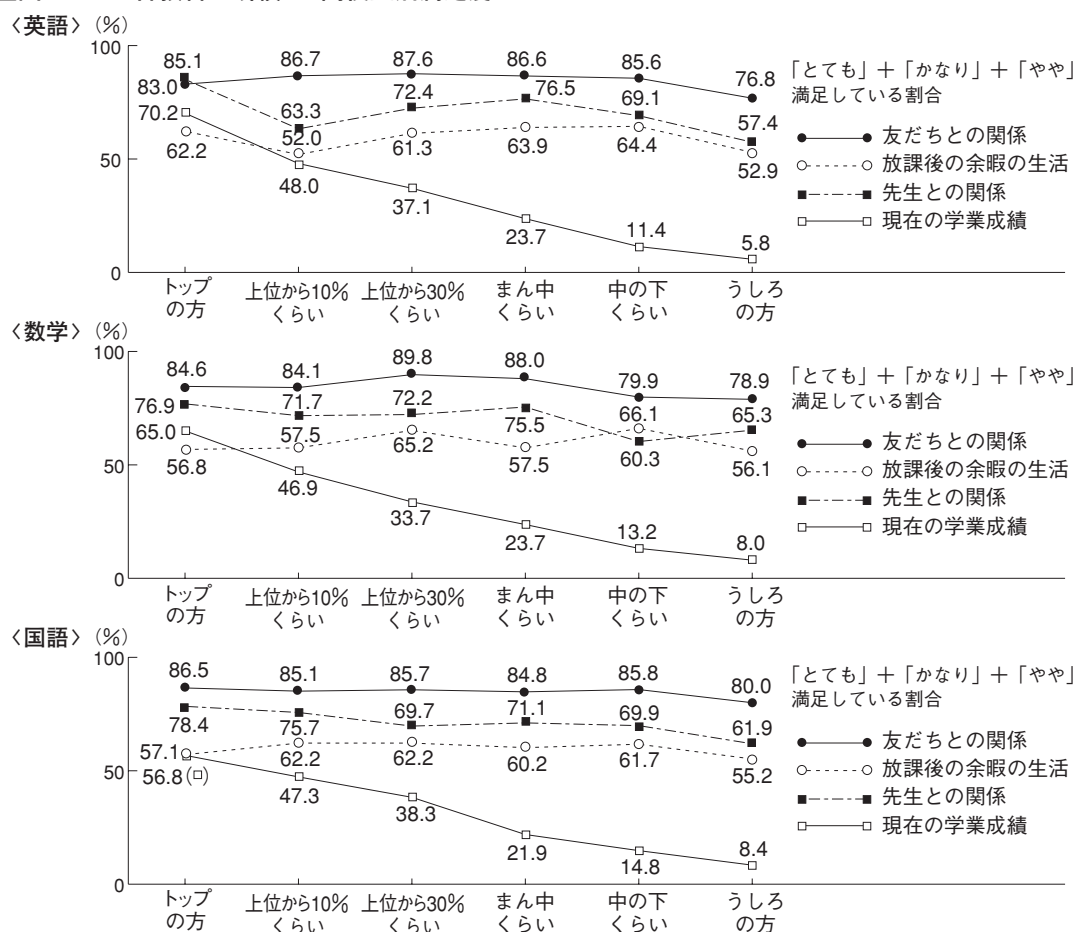
「友だちとの関係」「放課後の余暇の生活」と各教科の成績との関係はほとんどない。各教科の成績の良し悪しが、友人関係や余暇生活に影響しないということは、生徒文化の自立性を示すと同時に、学校のフォーマルな部分が生徒のインフォーマルな部分への影響力が少ないことを示すものであろう。

3. 今のしあわせ感

今のしあわせ感を7段階で聞いたものを、時系列でみたのが、図1－6である。

「しあわせ」（とても＋かなり＋やや）という回答は、1980年46.0%、1992年47.3%、2003年48.3%と、多少しあわせ感は増加している（20年間で2.3ポイント増）。一方「ふしあわせ」（とても＋かなり＋やや）という回答は、1980年16.7%、1992年18.7%、2003年18.5%と、多少ふしあわせ

■図1－5 各教科の成績 × 高校生活満足度



感も増加している（20年間で1.8ポイント増）。「ふつうくらい」が1980年37.3%、1992年34.0%、2003年33.2%と、多少減少している（20年間で4.1ポイント減）。しあわせ感の2極化現象が多少おきている。

1992年と2003年のデータで、性別・学年別にみると、いつの時代も、女子、3年生以外にしあわせ感が高く、男子、3年生にしあわせ感が低い（図1-7）。高校教育を受ければ受けるほど、しあわせ感が増すという構図になっていない。

4. まとめ

本調査は、20年前（「1980年調査」）と10年前（「1992年調査」）の調査データとの比較で、現在（「2003年調査」）の高校生の生活と意識の変化を明らかにすることも目的とし実施した。

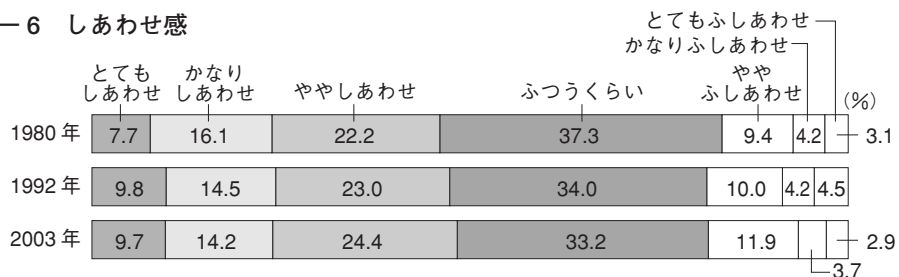
本章では、学校生活の時系列比較のデータを分

析し、次のようなことを明らかにした。

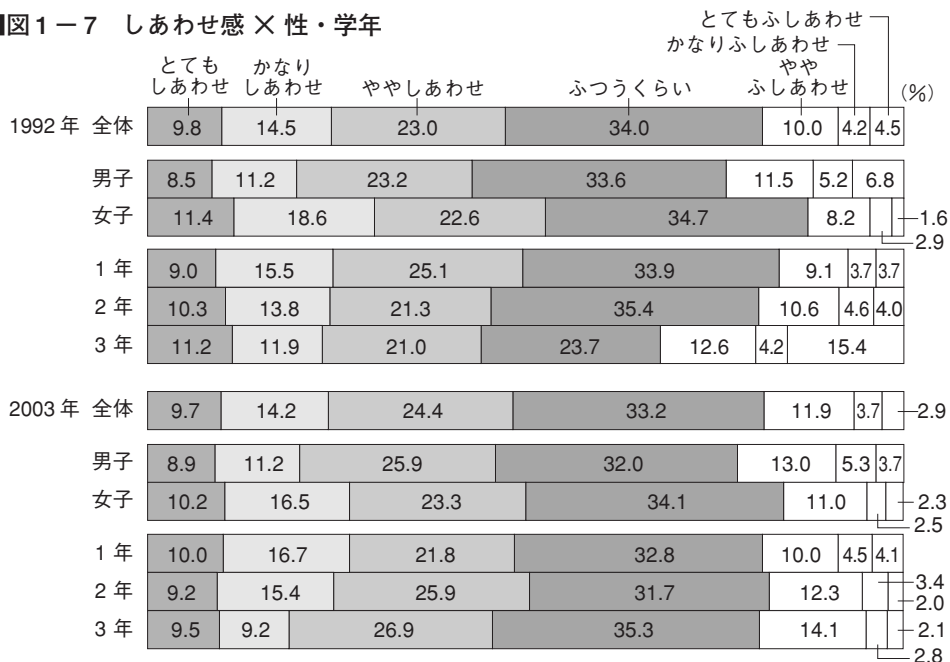
- ①部活動に積極的な割合はわずかながら増えている。
- ②熱心に指導してくれる先生が増えて、生徒ははじめに勉強するようになっていが、大学進学意欲は高まっていない。
- ③いつの時代もインフォーマルな部分（友だち、放課後）への満足度は高く、フォーマルな部分（成績、先生との関係）への満足度は低い。各教科の成績の良し悪しが、友人関係や余暇生活に影響せず、生徒文化が自立的な領域であることを示している。
- ④しあわせ感の2極化傾向も多少みられる。

以下の章で、進学意識、職業意識、家庭像についてみていく。

■図1-6 しあわせ感



■図1-7 しあわせ感 × 性・学年



第2章

進学意識の現在 (23年・11年前と比較して)

浜島 幸司

はじめに

本章は、2003年時点の高校生の進学意識について、1980年調査データ（vol.1）、1992年調査データ（vol.36）を比較しながら、検討していく。11年、23年と歳月が離れたデータを参考としながら、現在の進学意識の特徴を追っていくことにしたい。

『モノグラフ・高校生』vol.36（高校生は変わったのか—1980年調査と比較して—）では、1980年と1992年とを比較して、次のような「まとめ」が書かれている。

今回の結果の中で目につくのは、12年の間に、高校生たちが一流大学の値打ちはますます上がるだろう、しかし、自分は入れそうもない、だから、入れそうな大学へ入って大きな望みをもたずに地道に生きていこうと思う気持ちが強まっている傾向だった（『モノグラフ・高校生』vol.36 40ページ）。

はたして、1992年から11年を経た2003年の現状とは、いかなる結果となるのか。

本章の構成であるが、検討する進学意識は以下の点に絞る。まず、高校卒業後の進路希望についてみていく（第1節）。次に、大学への進学に焦点を絞り、進学に際し、高校生が重視する選択基準についてみていく（第2節）。引き続き、進路選択の基準について知るために、二者択一形式で設定した項目の結果をみていく（第3節）。最後に、「一流大学卒」がもつとされる値打ちについて、今後その価値が上がるのか（下がるのか）、その見通しを尋ねた（第4節）。これらの結果より、高校生が抱えている進学への構え・志向性といったものが明確になるだろう。

1. 高校卒業後の進路

私立大学への進学希望が倍増しているのが注目される（vol.36 14ページ）。

現時点で考えている高校卒業後の進路について、1980年調査データと1992年調査データと今回のデータの結果を表に記した（表2-1）。4年制大学進学希望者は、各時点で82.3%→84.7%→81.4%となっており、今回の値が最も低くなっている。それは、「非進学者（就職する十家事などを手伝う十専修学校や専門学校へ通う）」や「まだ決めていない」の回答が多くなっていることによる。4年制大学進学希望者の内訳をみると、今回では「国立」希望者が、69.4%（1992年では61.5%）と増加した。逆に「私立」希望者が12.0%（1992年では23.2%）と減少した。しかし、この内訳は1980年の結果とあまり変わっていない。3時点のデータを眺めてみると、1992年の結果が際立っているような気がする。

それでは、属性別（男女・学年）で、この進路希望の傾向は、どのようになっているのだろうか。1980年調査では、属性別のデータがないので、1992年調査と今回の2時点（11年）間の比較を行う。その結果が表2-2である。

今回の結果について、1年生を除いて他の属性では、4年制「国立」大学希望者の回答が増加している。他に、各属性で目立つ結果をみると、女子の「短大」希望者が減少している（10.4%→4.8%）。短大人気の低下が著しいことと関連しているようだ。1年生の「進路未決定（その他十まだ決めていない）」が増加している（7.6%→15.6%）。反対に、3年生の「進路未決定」が減少している（13.5%→3.5%）。本データでは、1年生は多様な進路を模索し、3年生までに決定しなければいけない、そのような風潮もあるのかもしれない。

■表 2-1 高校卒業後の進路 3 時点の変化

(%)

	1980年	1992年	2003年
a 就職する	1.2	1.4	1.8
b 家事などを手伝う	2.0	0.2	0.1
c 専修学校や専門学校へ通う	3.3	2.3	4.4
非進学者 (a+b+c)	6.5	3.9	6.3
d 短大へ入学する	4.5	4.8	2.7
e 4 年制大学 (私立) へ入学する	11.6 <	23.2 >	12.0
f 4 年制大学 (国立) へ入学する	70.7 >	61.5 <	69.4
4 年制大学進学希望者 (e+f)	82.3	84.7	81.4
g その他	0.1	1.6	1.1
h まだ決めていない	6.6	5.0	8.4
計 (a~h)	100.0	100.0	99.9

<>の記号は前回データと比べて、5ポイント以上の差がある場合につけた

■表 2-2 高校卒業後の進路×性・学年 2 時点

(%)

	男子		女子		1 年		2 年		3 年	
	1992年	2003年	1992年	2003年	1992年	2003年	1992年	2003年	1992年	2003年
非進学者 (就職+家事+専門学校)	3.0	6.6	4.8	6.1	4.4	7.2	3.4	5.4	3.5	6.0
短大へ入学する	0.4	0.0	10.4 >	4.8	4.6	1.4	5.5	2.4	1.4	4.9
4 年制大学 (私立) へ入学する	22.6 >	10.3	24.1 >	13.4	15.1	13.7	30.5 >	8.5	29.8 >	13.4
4 年制大学 (国立) へ入学する	67.2 <	74.0	54.5 <	65.8	68.3 >	62.1	55.9 <	76.9	51.8 <	72.2
その他+まだ決めていない	6.8	9.1	6.2	9.9	7.6 <	15.6	4.7	6.8	13.5 >	3.5

<>の記号は前回データと比べて、5ポイント以上の差がある場合につけた

2. 大学選択の基準

全体として、入学がむずかしそうで、就職がよさそうな、いわゆる一流大学を目指す生徒が多い。しかし、1980年と対比させたとき、1992年のデータではそうした傾向が薄らいでいる。何があんでもこの大学へという気持ちが薄くなり、どの大学でもいいから、どこか適当なところへ入りたいという生徒が多くなっているのであらう (vol.36 14ページ)。

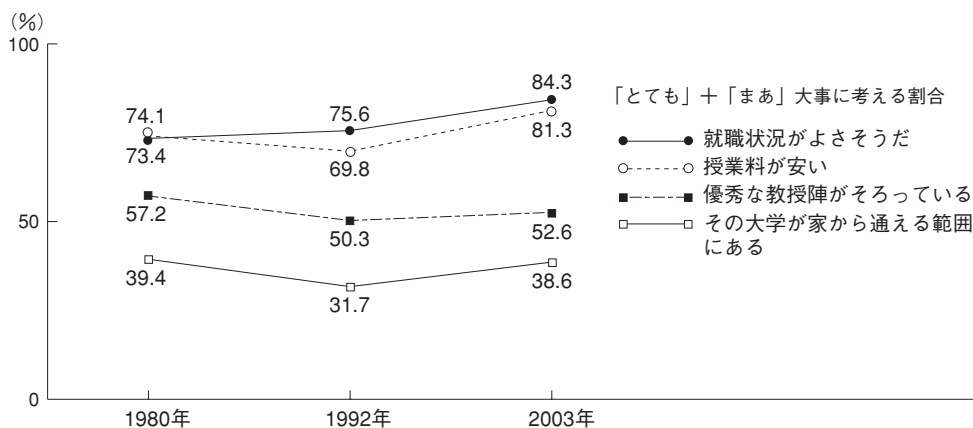
高校生が、大学進学を考える際に重視する項目とは何なのだろうか。今回、「大事に考える (とても+まあ)」割合が大きい順番をみていくと、

「就職状況がよさそう」(84.3%)、「授業料が安い」(81.3%)、「入学するのが難しい」(71.8%)、「優秀な教授陣がそろっている」(52.6%)などがある。一方で、「伝統のある大学である」(30.5%)、「その大学が家から通える範囲にある」(38.6%)は、そう大事に考えられているわけではない。

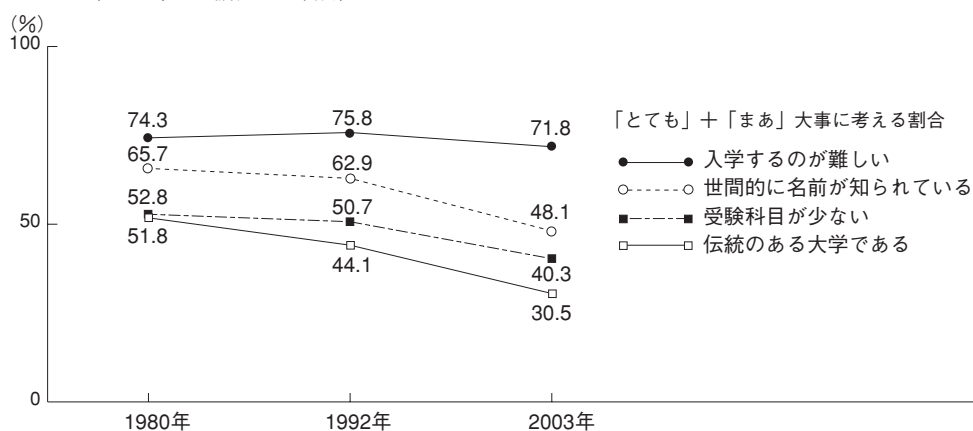
この「大事に考える (とても+まあ)」回答を3時点で比較したグラフが図2-1と図2-2である。図2-1では、1992年と比べて、回答割合が増加した項目を記した。図2-2では反対に減少した項目を記した。

図2-1より、「就職状況がよさそう」「授業料が安い」は3時点の間でも、大きく増加した。長引く不況の影響がうかがえる。図2-2より、「世間的に名前が知られている」「受験科目が少ない」

■図2-1 志望大学を決めるときに大事に考えること 3時点の変化
(1992年から増加した項目)



■図2-2 志望大学を決めるときに大事に考えること 3時点の変化
(1992年から減少した項目)



い」「伝統のある大学である」は、3時点の間でも、大きく減少した。「受験科目」については、この10年間で、多様な選抜方式（推薦入試・AO入試など）が定着し、科目の数が進路に多大な影響を及ぼさなくなったことを意味するのではないか。「世間的に名前が知られている」「伝統のある大学である」については、1992年の結果以上に、大学名にこだわらない傾向が強くなっているのだろう。3時点の増減傾向について、表2-3のように示した。表中、「↑」は5ポイント以上の増加をあらわし、「↓」は5ポイント以上の減少をあらわす。1980年と今回の2時点の比較も行ってみた。これによって、1980年から引き続き増加（減少）している項目と、1992年から増加（減少）している項目がわかる。

1992年調査と比較して、属性別の傾向をみていく。その結果が、表2-4である。前回と引き続き、女子は男子と比べて、「就職状況がよさそうだ」「授業料が安い」を大事に考えている。「授業料が安い」で、3年生の回答が大きく増加した（56.6%→84.0%）。その他の項目についてみると、1年生は「入学するのが難しい」で減少し、「その大学が家から通える範囲にある」「優秀な教授陣がそろっている」で増加した。反対に、3年生は「入学するのが難しい」で増加し、「その大学が通える範囲にある」「優秀な教授陣がそろっている」で減少した。学年によって、大学進学の際に重視するものが異なるようだ。

■表2-3 志望大学を決めるときに大事に考えること 3時点の変化（増減表）

	1980年	1980年→1992年	1992年	1992年→2003年	2003年	1980年→2003年
						(%)
就職状況がよさそうだ	73.4	—	75.6	↑	84.3	↑
授業料が安い	74.1	—	69.8	↑	81.3	↑
入学するのが難しい	74.3	—	75.8	—	71.8	—
優秀な教授陣がそろっている	57.2	↓	50.3	—	52.6	—
世間的に名前が知られている	65.7	—	62.9	↓	48.1	↓
受験科目が少ない	52.8	—	50.7	↓	40.3	↓
その大学が家から通える範囲にある	39.4	↓	31.7	↑	38.6	—
伝統のある大学である	51.8	↓	44.1	↓	30.5	↓

「とても」＋「まあ」大事に考える割合
5ポイント差以内は“—”とした

↑↓は前回と比較して5ポイント以上の増減をあらわす
各項目それぞれ、3時点での最大値のセルにアミかけをした

■表2-4 志望大学を決めるときに大事に考えること×性・学年 2時点

	男子		女子		1年		2年		3年	
	1992年	2003年	1992年	2003年	1992年	2003年	1992年	2003年	1992年	2003年
就職状況がよさそうだ	72.6	< 79.8	79.3	< 88.0	77.9	< 87.0	73.1	< 86.1	76.2	< 78.8
授業料が安い	65.8	< 78.8	75.0	< 83.2	75.2	< 80.4	66.3	< 80.0	56.6	< 84.0
入学するのが難しい	73.3	< 68.7	78.9	< 74.2	79.3	> 71.6	74.5	< 70.4	58.0	< 73.5
その大学が家から通える範囲にある	25.1	< 31.3	40.0	< 44.4	27.0	< 41.0	34.9	< 41.1	41.3	> 32.4
優秀な教授陣がそろっている	48.1	< 48.5	53.1	< 55.8	51.1	< 56.6	47.9	< 50.7	62.9	> 48.6
世間的に名前が知られている	65.0	> 50.9	60.2	> 45.8	61.3	> 50.7	63.3	> 45.4	72.0	> 46.8
受験科目が少ない	45.5	> 37.9	57.3	> 42.2	55.8	> 44.2	46.6	> 40.7	46.1	> 34.3
伝統のある大学である	43.1	> 31.0	45.4	> 30.2	43.4	> 31.4	42.1	> 28.8	65.0	> 31.1

「とても」＋「まあ」大事に考える割合
<>の記号は前回データと比べて、5ポイント以上の差がある場合につけた
5ポイント以上の差がある場合、大きい値のセルにアミかけをした

3. 進路意識の3時点

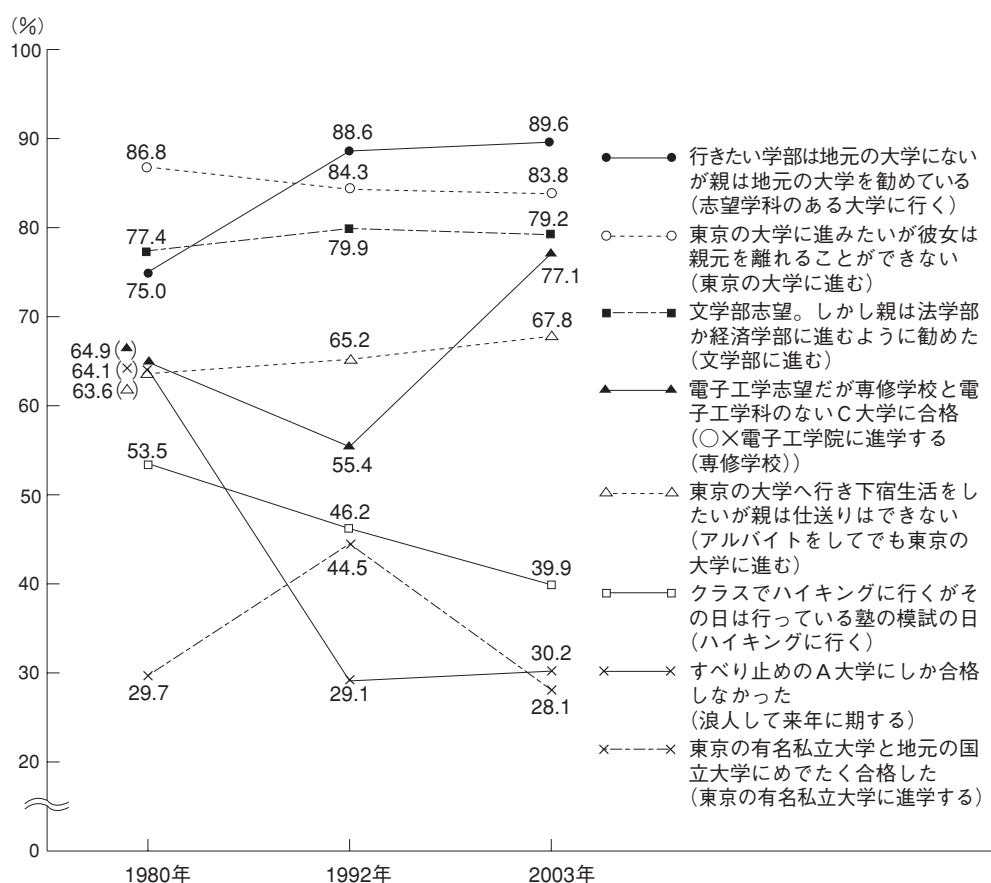
1992年の大学受験はベビーブーマーといわれ、戦争直後に生まれた世代の子どもたちが受験期を迎え、史上もっとも大学が狭き門になったといわれる。そうした状況をみている、高校生はとにかくにも大学だけは入れるところに入ろうと思っているのかもしれない（vol.36 15ページ）。

1992年調査と同じく、今回の結果でも、7割以上の生徒に大学難易度は重視されている。さらに、知名度や伝統といったものとはかなり距離を置いているということも明らかとなった。もう少し、進路選択の基準について深めていくために、進路に関する二者択一の質問を用意してみた。ある状

況を想定し、自分だったらどうするかとの質問回答より、彼らの進路に対する志向性を読みとることが可能となる。図2-3が、3時点の結果である。

3時点において、一貫して高い回答を示している項目として、「東京の大学に進みたいが彼女は親元を離れることができない（東京の大学に進む）」「文学部志望。しかし親は法学部か経済学部に進むように勧めた（文学部に進む）」「東京の大学へ行き下宿生活をしたいが親は仕送りはできない（アルバイトをしてでも東京の大学に進む）」「行きたい学部は地元の大学にないが親は地元の大学を勧めている（志望学科のある大学に行く）」がある。これらの項目にうかがえる「自分の希望」を、彼らは何よりも優先している傾向がみられる。これは「電子工学志望だが専修学校と電子工学科のないC大学に合格（〇×電子工学院に進学する

■図2-3 進路選択 3時点の変化



(専修学校))」の回答が、1992年調査データと比べて、大きく増加していることから、大学にこだわらず「自分の希望」が強いことをあらわしている。

他に、「すべり止めのA大学にしか合格しなかった(浪人して来年に期する)」が1992年調査と同じく30%前後に定着し、「クラスでハイキングに行くがその日は行っている塾の模試の日(ハイキングに行く)」「東京の有名私立大学と地元の国立大学にめでたく合格した(東京の有名私立大学に進学する)」が1992年から減少している。

続いて、属性別の傾向を1992年調査と今回を比較してみよう(表2-5)。

どの属性とも、「電子工学志望だが専修学校と電子工学科のないC大学に合格(○×電子工学院に進学する(専修学校))」の回答が、今回では増加している。反対に、「東京の有名私立大学と地元の国立大学にめでたく合格した(東京の有名私

立大学に進学する)」の回答が、今回では減少している。男子を除いて、「クラスでハイキングに行くがその日は行っている塾の模試の日(ハイキングに行く)」は減少した。

女子と1年生で、「東京の大学へ行き下宿生活をしたが親は仕送りはできない(アルバイトをしてでも東京の大学に進む)」が増加した。「自分の希望」を重視している属性といえよう。

3年生では、「すべり止めのA大学にしか合格しなかった(浪人して来年に期する)」が減少し、「行きたい学部は地元の大学にないが親は地元の大学を勧めている(志望学科のある大学に行く)」が増加した。受験を間近に控えているということであろうか、「自分の希望」のみならず、「入れるところに、とりあえずは入っておく」という浪人を忌避する選択も登場してくる。そして、それは10年前と比べて強くなっている。

■表2-5 進路選択×性・学年 2時点

(%)

	男子		女子		1年		2年		3年	
	1992年	2003年	1992年	2003年	1992年	2003年	1992年	2003年	1992年	2003年
行きたい学部は地元の大学にないが親は地元の大学を勧めている(志望学科のある大学に行く)	89.7	90.4	87.4	89.1	89.6	91.8	87.9	85.4	84.5	< 90.9
東京の大学に進みたいが彼女は親元を離れることができない(東京の大学に進む)	79.2	79.6	90.7	87.1	82.8	81.0	85.6	85.8	86.7	86.0
文学部志望。しかし親は法学部が経済学部に進むように勧めた(文学部に進む)	77.7	73.2	82.7	83.8	78.4	77.1	81.0	80.7	81.7	80.7
電子工学志望だが専修学校と電子工学科のないC大学に合格(○×電子工学院に進学する(専修学校))	50.4	< 74.4	61.8	< 79.3	64.0	< 81.4	48.7	< 80.6	40.6	< 67.4
東京の大学へ行き下宿生活をしたが親は仕送りはできない(アルバイトをしてでも東京の大学に進む)	69.6	71.2	59.6	< 65.2	64.1	< 73.3	66.1	61.7	64.3	66.3
クラスでハイキングに行くがその日は行っている塾の模試の日(ハイキングに行く)	49.3	46.0	42.2	> 35.1	44.7	> 39.5	46.0	> 38.0	59.9	> 42.5
すべり止めのA大学にしか合格しなかった(浪人して来年に期する)	35.5	37.4	21.0	24.6	30.3	32.7	25.6	28.1	46.9	> 28.9
東京の有名私立大学と地元の国立大学にめでたく合格した(東京の有名私立大学に進学する)	48.1	> 30.4	40.0	> 26.3	40.8	> 33.3	46.3	> 23.4	56.3	> 25.6

<>の記号は前回データと比べて、5ポイント以上の差がある場合につけた
5ポイント以上の差がある場合、大きい値のセルにアミかけをした

4. 一流大学卒の値打ち

少なくとも一流大学卒というレッテルだけで人生が送れるほど、あまい時代ではないのだが、これから受験する生徒たちにはそう思えない。「一流大学」がひかり輝いて見えるのであろう (vol.36 19ページ)。

一流大学卒の効用がこれからも高まると思っているのは、… (略) …一流大学へ遠い生徒たちのほうが、学歴の意味を高く評価している。それに対し、…… (略) …一流大学へ手の届きそうな生徒たちが、学歴の効用を否定的にとらえているのが注目される。… (略) …いずれにせよ、かなり多くの生徒が、学歴の効用をかなり高く信じているのがわかる (vol.36 19ページ)。

1992年調査では、「一流大学卒」の値打ち (効用) が、これからも高まると考えられていた。

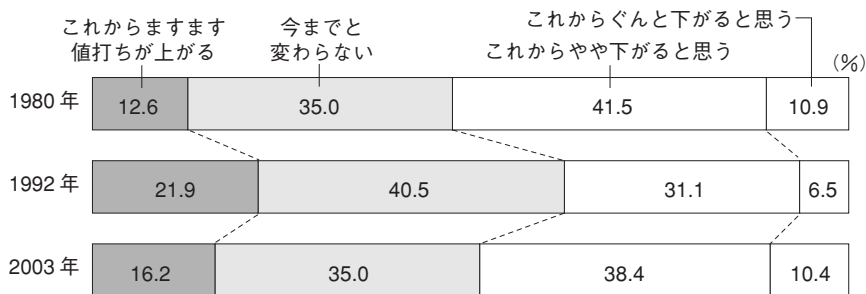
2003年調査では、どうなのか。1980年調査のデータを含め、結果をグラフにしたものが図2-4である。

「これからますます値打ちが上がる」の回答は、12.6%→21.9%→16.2%であった。今回の結果は1992年と比べて低下している。どちらかというとも1980年の結果と似ている。ということは、1992年のデータの方こそ、目立つ結果だったといえそうである。

属性別についての比較が、表2-6 (男女別)、表2-7 (学年別) である。さらに表2-7のデータをもとに、学年別に「これからますます値打ちが上がる」回答の3時点をグラフにしたものが図2-5である。この項目については、『モノグラフ・高校生』vol.1 報告書本文中に性別学年別のデータが記されていた。このデータを再計算して、男女別、学年別の値を作成して、表にした。

性別では、男女ともに、1992年調査で「ますます値打ちが上がる」が1980年と比べて増加し、2003年調査で減少する (1980年調査結果と同様の傾向を示す)。

■図2-4 一流大学を卒業したという値打ち 3時点の変化



■表2-6 一流大学を卒業したという値打ち×性 3時点

	(%)					
	男子			女子		
	1980年	1992年	2003年	1980年	1992年	2003年
これからますます値打ちが上がる	13.3	< 20.5	17.9	11.2	< 23.7	> 14.9
今までと変わらない	33.6	< 39.3	> 33.5	36.4	< 42.0	> 36.2
これから下がると思う (やや+ぐんと)	53.1	> 40.2	< 48.6	52.4	> 34.3	< 48.9

<>の記号は前回データと比べて、5ポイント以上の差がある場合につけた

学年別では、総じて、1年生→2年生→3年生の順で、一流大卒の値打ちが高まると考えられている。「一流大学より距離の遠い方」(受験期間から日があるという意味で)に、学(校)歴の効用を信じさせているということはいえるだろう。また、興味深いことに1980年調査と比べて、1992年調査、今回調査結果より、学年間での差が大きくなっている。1992年調査と比べて、今回、2年生と3年生の回答は5ポイント以上減少している。しかし、1年生は25.6%→22.9%と2.7ポイントの減少でしかない。つまり、1年生だけが、この一流大卒の値打ちがこれからも上がるものと信じているのである。なぜ、1年生は学(校)歴の効用を信じるのであろうか。学歴社会を信じる時代的風潮があるのだろうか、受験に前向きな態度をもっているからなのか。それとも、別の要因があるのだろうか。

ともあれ、学(校)歴の効用は、1992年より減少し、1980年時点と類似しているということ、とりわけ1年生に多く信じられているということが明らかとなった。

まとめ

以上のように3時点の結果をながめてみると、2003年の傾向は、1980年調査と似ている部分が多いことがわかる。とはいえ、1992年から引き続く似た回答もなくはない。だが、何よりも1992年のデータがバブル期・18歳人口のピークによる受験難などの影響で、かなり特異な結果となっているといえるのではないか。

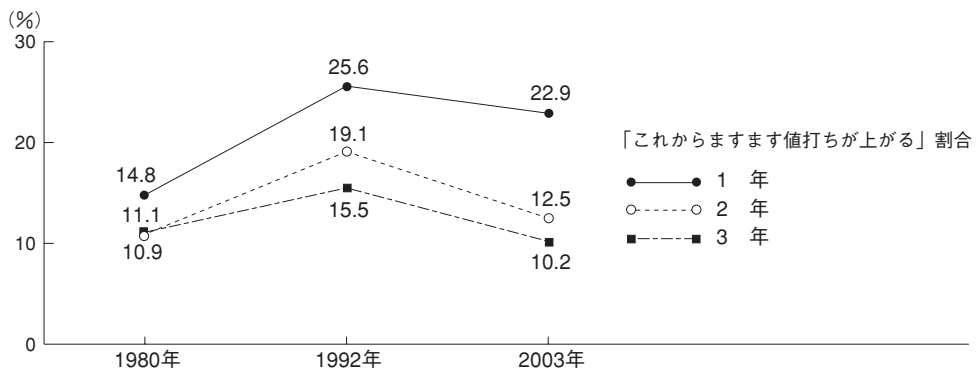
今回の2003年の進学意識が、現在の不況の影響を受けているのか、それとも「自分の希望」第一主義へと特化しているのかどうかは、即答できない。というのも、1980年のデータでも、その傾向はすでにみられている。「自分の希望」は決して目新しいものともいえないからである。とはいえ、進学に対し知名度への過剰なこだわり、家庭からの制約、科目の選択への悩み、そのあたりは1980年、1992年と比べて、随分と弱まった(プレッシャーみたいなものはとりわけ)のかもしれない。

■表2-7 一流大学を卒業したという値打ち×学年 3時点

	1年			2年			3年		
	1980年	1992年	2003年	1980年	1992年	2003年	1980年	1992年	2003年
	(%)								
これからますます値打ちが上がる	14.8	< 25.6	22.9	10.9	< 19.1	> 12.5	11.1	15.5	> 10.2
今までと変わらない	31.4	< 38.0	34.0	35.4	< 42.1	38.3	38.2	< 47.9	> 33.1
これから下がると思う(やや十ぐんと)	53.8	> 36.4	< 43.2	53.8	> 38.8	< 49.2	50.7	> 36.6	< 56.7

<>の記号は前回データと比べて、5ポイント以上の差がある場合につけた

■図2-5 一流大学を卒業したという値打ち×学年 3時点の変化



第3章

「働くこと」をめぐる意識の変容

岩田 考

1. はじめに

本章では、高校生の「働くこと」をめぐる意識の変化をみていくことにしよう。1979年から2003年の約20年間で、どのような変化がみられるのであろうか。

近年、いわゆる「フリーター」や学卒無業者など、若年層の雇用問題が注目を集めている。平成12年版『労働白書』や平成15年版『国民生活白書』でフリーターの増加が取り上げられたこともあり、フリーター問題が研究者のみならずマスコミでも盛んに議論されようになった。フリーター数の推計は、その定義や用いる調査データによって大きく異なるが、フリーターと呼ばれる若者は確かに増えているようである。若年雇用に詳しい労働政策研究・研修機構の小杉礼子によれば、フリーター数は1982年の59万人から、1992年には110万人に増加し、さらに2001年には206万人に達している（小杉 [2003a]）¹⁾。また、図3-1に示したように、若年層の失業率は、いわゆる「リストラ」や企業倒産などとの関連で問題とされることの多い中高年の失業率と比べても非常に高くなっている²⁾。

他方で、若者にとっても「働くこと」が関心事となっているようである。先頃発表された第7回世界青少年意識調査（2003年実施）の速報によると、自国社会の問題として「就職が難しく、失業も多い」（64.6%）をあげる者が日本の若者では最も多い（1998年に実施された第6回調査では40.3%）。また、悩みごとや心配ごととして就職をあげる者の割合も最も高くなっている（前回の26.8%から33.9%へと増加）。

このような状況をふまえると、高校生の「働くこと」をめぐる意識の変化についての検討は、若年層の失業・雇用問題を考えていくことに対して

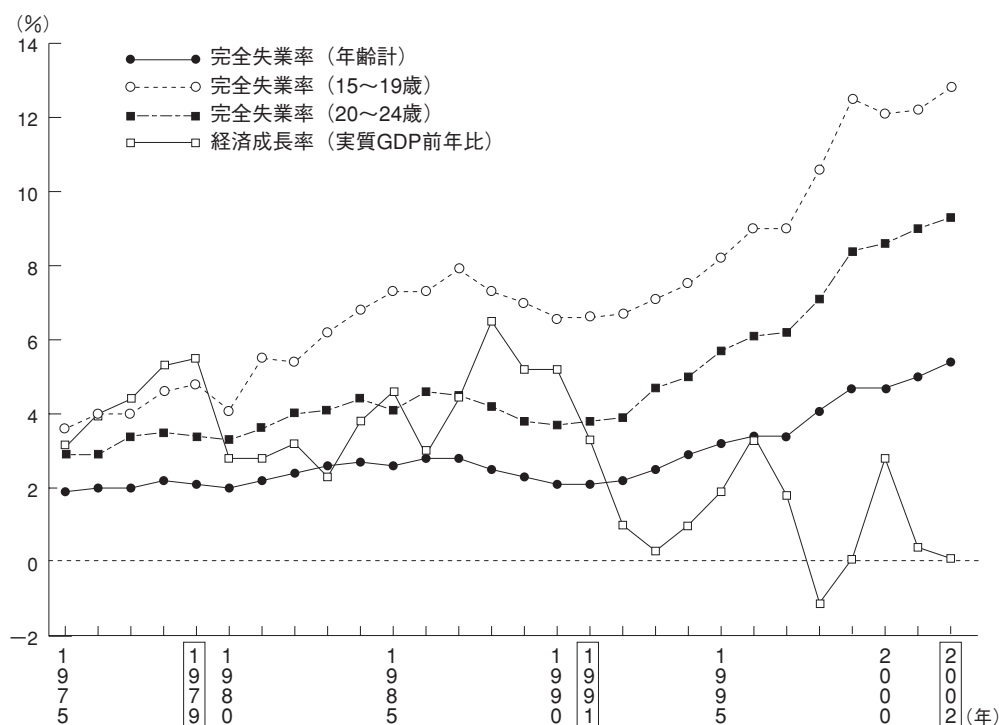
も何らかの示唆を与えてくれるかもしれない。本章は、ささやかではあるが、そのような試みの1つとしても位置づけられる。

すぐにでも分析に入りたいところであるが、その前に比較を行う3時点における若年層の雇用環境を簡単にみておくことにしよう。今回比較を行うのは、『モノグラフ・高校生』vol.1の調査とvol.36の調査である。各調査はそれぞれ、1979年9月～10月と1992年2月～3月に実施されている。3時点における若年層の雇用環境等は表3-1のようになっている。1992年調査は、実施時期から1991年のデータを掲載した。また、2003年調査については、2003年の統計等が発表されていないため、2002年のデータを示した。

1979年は、第二次石油危機の直後で、その後景気後退が深刻さを増していくが、調査時点ではそれほど雇用環境は悪化していない。例えば、失業率は最も低くなっている。1991年から1992年にかけては、景気が減速し、いわゆる「バブル崩壊」によって不況に突入していった時期である。しかし調査時点では、まだ雇用環境は厳しい状況にはなかった。求人倍率も現在に比べ、かなり高い水準になっている。2003年は、周知のように深刻な不況のなかにあり、雇用環境は厳しくなっている。また、単に不況による雇用環境の悪化だけでなく、雇用の流動化や非正規社員の活用が進むなど、いわゆる「日本型雇用システム」に質的な変化がみられるとされる³⁾。

それでは、このような3時点における高校生の「働くこと」をめぐる意識の変化を、「会社選択の基準」（第2節）、「仕事選択の基準」（第3節）、「なりたい職業」（第4節）という3つの観点から、みていくことにしよう。なお、第3節末では「会社選択の基準」と「仕事選択の基準」との関係、第5節では「会社や仕事選択の基準」と「大学選択の基準」との関係をみている⁴⁾。

■図3-1 日本の経済成長と失業の推移



注) 完全失業率は、年内月平均の数値。総務省「労働力調査」より。
経済成長率は、実質国内総生産 (GDP) の前年比。内閣府「国民経済計算」より。

■表3-1 各調査時の雇用環境や社会状況

		1980年調査	1992年調査	2003年調査
調査実施		1979年9月～10月	1992年2月～3月	2003年6月～7月
回答者の生まれた年度		1962 (S37) 年度～ 1964 (S39) 年度頃	1974 (S49) 年度～ 1976 (S51) 年度頃	1985 (S60) 年度～ 1988 (S62) 年度頃
下記掲載データの年		1979 (S54) 年	1991 (H3) 年	2002 (H14) 年
完全失業率 (%)	年齢計	2.1	2.1	5.4
	15～19歳	4.8	6.6	12.8
	20～24歳	3.4	3.8	9.3
求人倍率 (年度卒)	高卒	1.87	3.34	1.27
	大卒	—	2.41	1.30
就職率 (%) (年度卒)	高卒	42.9	33.1	17.1
	大卒	75.3	79.9	56.9
無業者の割合 (%) (年度卒)	高卒	6.2	4.7	10.5
	大卒	9.6	5.7	22.5
経済社会・教育・ 若者のキーワード	経済社会	第二次石油ショック 「省エネ」「日米経済摩擦」 『不確実性の時代』(78) 『ジャパン アズ ナンバーワン』	バブル崩壊から不況へ 「バブル崩壊」 『複合不況』(92)	デフレ不況 「デフレ」 「構造改革」
	教育	共通一次試験開始	学校週5日制開始 (第2土曜) (92)	完全学校週5日制 学力低下・「総合的な学習の時間」
	若者	「モラトリウム人間」(78) 「竹の子族」 ディスコブーム (78)	「オタク」の一般化 「チーマー」の郊外化 「お立ち台ギャル」	「社会的ひきこもり」 「動物化」 「島宇宙化」

注) 完全失業率は、「労働力調査」より。求人倍率は、高校生は「職業安定業務統計」より、大学生はリクルートワークス研究所「大卒求人倍率調査」より。就職率と無業者の割合は、「学校基本調査」より(1999 [平成11] 年以降、「無業者」は「左記以外の者」に変更されている)。
経済社会、教育、若者のキーワードは、当時のイメージをとらえるための大まかなもの。

2. 高校生の選ぶ会社

1) 会社選択基準の現在

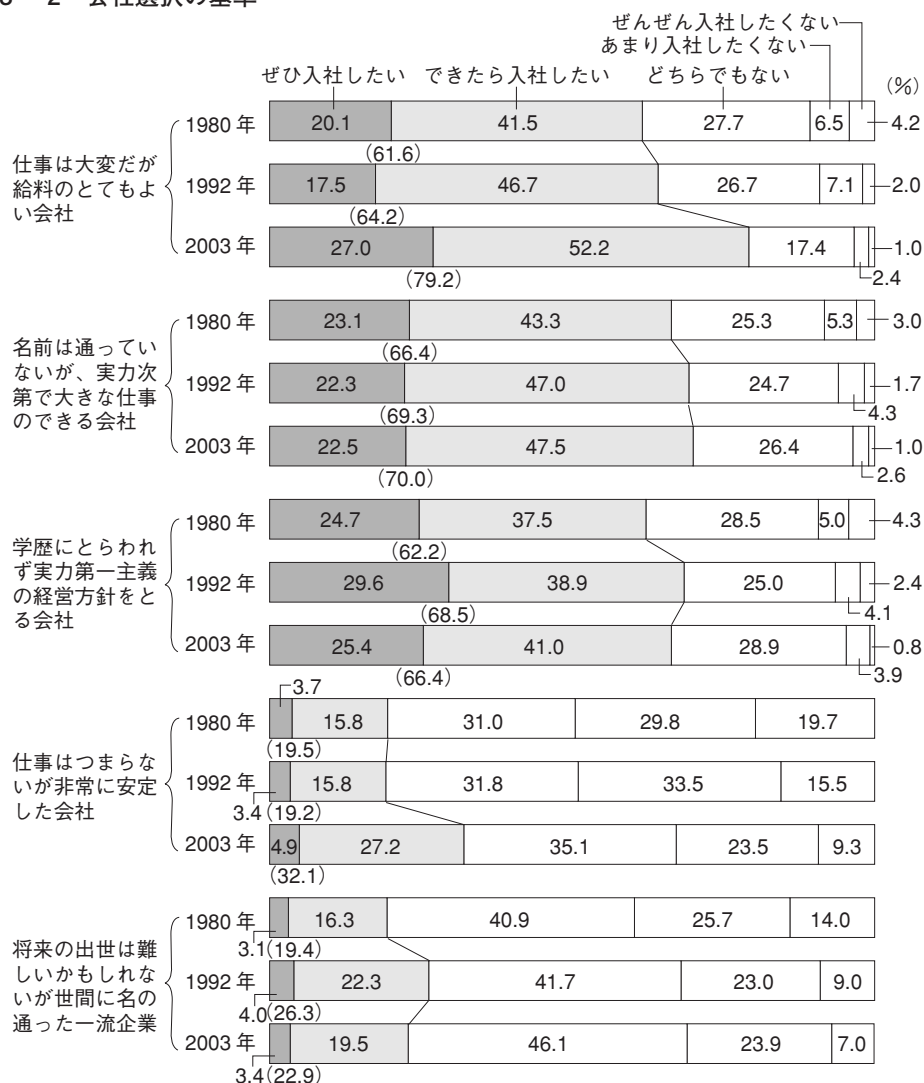
まず、高校生が会社を選ぶ際、どのような点を重視するかについてみてみることにしよう。今回の調査では、会社選択の基準について、図3-2のような5つの質問を行っている。2003年調査の肯定率（「ぜひ入社したい」＋「できれば入社したい」）をみると、3つの項目で高く、2つの項目で低くなっていることがわかる。

肯定率の高い項目は、「給料のよい会社」（仕事は大変だが給料のとてもよい会社）79.2%、「大きな仕事のできる会社」（名前は通っていないが、実力次第で大きな仕事のできる会社）70.0%、

実力次第で大きな仕事のできる会社）70.0%、「実力第一主義の会社」（学歴にとらわれず実力第一主義の経営方針をとる会社）66.4%である。他方、肯定率が低いのは、「一流企業」（将来の出世は難しいかもしれないが世間に名の通った一流企業）22.9%、「安定した会社」（仕事はつまらないが非常に安定した会社）32.1%である。

これらの結果から大まかな傾向を読みとると、高校生は会社の選択において、実力主義的な志向が強く、安定志向は弱いということになる。ただし、この解釈には若干の困難もある。なぜなら、これらの項目は社会調査法的に言えばダブルバーレルになっているからである（ダブルバーレルとは、2つの事柄を一緒にきくもの）。例えば、「仕

■図3-2 会社選択の基準



事は大変だが給料のとてもよい会社」は、「仕事の大変さ」と「給料のよさ」のどちらに回答者が反応したのか判断しがたいところがある。しかし、全体として上記のような傾向を指摘することは可能であろう。

また、表3-2のように、性別と学年別で明確な差のみられる項目はない⁵⁾。

2) 会社選択基準の変化

次に、時系列の変化に目を向けてみることにしよう。20年以上という期間を考えると意外かもしれないが、図3-2に示したように全体としては劇的な変化はみられない。比較的大きな変化のみられる項目は2つである。「給料のよい会社」は

61.6%→64.2%→79.2%と、一貫して肯定率が高まっている。また、「安定した会社」は19.5%→19.2%→32.1%と、2003年調査で肯定する者の割合が高くなっている。

各年での回答者数の性別・学年別の偏りに配慮するため、十分とはいえないが、性別・学年別に1992年調査から2003年調査の変化をみてみた。表3-3をみると、性別・学年別のすべてにおいて、「給料のよい会社」と「安定した会社」の選択率が高まっていることがわかる。

この2つの項目の変化を「給与」と「安定性」重視の傾向と考えると、不況や雇用環境の厳しさを反映したものといえるであろう⁶⁾。

■表3-2 会社選択の基準（2003年）×性・学年

		(%)				
	全体	性別		学年		
		男子	女子	1年	2年	3年
仕事は大変だが給料のとてもよい会社	79.2	79.3	79.1	77.5	80.6	80.0
名前は通っていないが、実力次第で大きな仕事のできる会社	70.0	72.0	68.5	66.6	71.5	73.5
学歴にとらわれず実力第一主義の経営方針をとる会社	66.4	66.8	66.1	65.9	65.4	68.2
仕事はつまらないが非常に安定した会社	32.1	33.7	30.8	34.6	31.9	28.5
将来の出世は難しいかもしれないが世間に名の通った一流企業	22.9	23.2	22.7	20.2	23.1	26.8

注) 数値は、「ゼビ」＋「できたら」入社したい割合。性別・学年別ともに5%水準で統計的に有意差のある項目はない（〈入社したい〉〈どちらでもない〉〈入社したくない〉の3段階で χ^2 検定を行った結果）。

■表3-3 会社選択の基準の変化×性・学年

													(%)
	全体			性別				学年					
				男子		女子		1 年		2 年		3 年	
	80	92	03	92	03	92	03	92	03	92	03	92	03 (年)
仕事は大変だが給料のとてもよい会社	61.6	64.2↗	79.2	63.9↗	79.3	64.6↗	79.1	66.8↗	77.5	61.1↗	80.6	67.7↗	80.0
名前は通っていないが、実力次第で大きな仕事のできる会社	66.4	69.3	70.0	71.1	72.0	66.9	68.5	69.3	66.6	69.5	71.5	67.7↗	73.5
学歴にとらわれず実力第一主義の経営方針をとる会社	62.2↗	68.5	66.4	68.8	66.8	67.9	66.1	69.1	65.9	67.9	65.4	65.6	68.2
仕事はつまらないが非常に安定した会社	19.5	19.2↗	32.1	21.1↗	33.7	16.8↗	30.8	19.3↗	34.6	19.2↗	31.9	19.7↗	28.5
将来の出世は難しいかもしれないが世間に名の通った一流企業	19.4↗	26.3	22.9	25.0	23.2	27.8↘	22.7	24.3	20.2	27.5	23.1	33.1↘	26.8

注) 数値は、「ゼビ」＋「できたら」入社したい割合。矢印は、5ポイント以上変動のあるもの。

3. 高校生の選ぶ仕事

1) 仕事選択基準の現在

本節では、仕事の選択基準についてみていく。具体的には、図3-3のように対称的な2つの生き方のどちらがしたいかを選択してもらう形式で、3つの質問をしている。なお、1980年調査では、左側が「やる気にとみ、モーレツな生き方をする人生」、右側が「マイホーム的なしあわせのある人生」と考えられていたようである。ここでは、左側の「やる気にとみ、モーレツな生き方をする人生」を基準にみていくことにしよう。

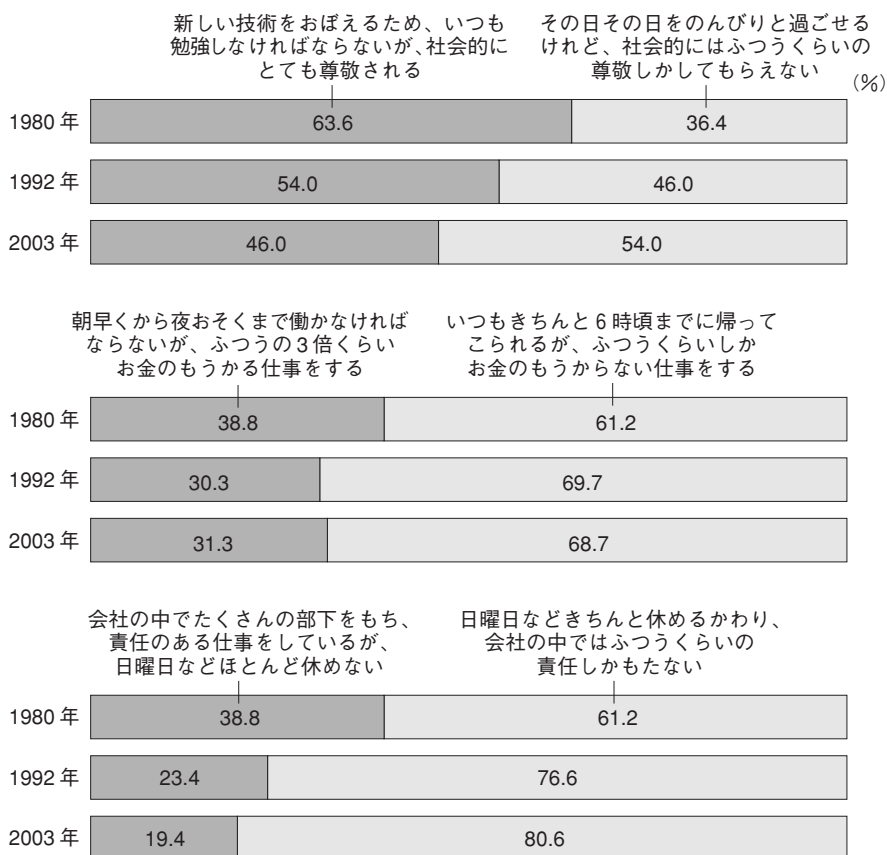
最も選択率が高かったのは、「社会的に尊敬される仕事」（新しい技術をおぼえるため、いつも勉強しなければならないが、社会的にとて尊敬される）46.0%であった。以下、「お金のもうかる仕事」（朝早くから夜おそくまで働かなければ

ならないが、ふつうの3倍くらいお金のもうかる仕事）31.3%、「責任のある仕事」（会社の中でたくさんの部下をもち、責任のある仕事をしているが、日曜日などほとんど休めない）19.4%となっている。

この結果をみると、「やる気にとみ、モーレツな生き方をする人生」は、いずれも5割を切っている。実力主義的な志向の強い会社選択とは異なり、厳しい仕事は敬遠される傾向がみられる。ただし、この質問もダブルバーレル的な面が強く、解釈には注意が必要かもしれない。つまり、「仕事の厳しさ」に力点があるとみることもできるし、「社会的な尊敬」や、「お金」「責任」の重要性に焦点があるとみることもできるからである。

表3-4は、仕事の選択基準を性別・学年別にみたものである。性別では、「社会的に尊敬される仕事」において男子の選択率が高くなっている。また、学年別では2項目で差がみられた。「社会

■図3-3 仕事選択の基準の変化



的に尊敬される仕事」と「責任のある仕事」で学年が上になるほど選択率が高くなっている。

2) 仕事選択基準の変化

次に、時系列の変化をみてみることにしよう。図3-3をみると、「社会的に尊敬される仕事」は、63.6%→54.0%→46.0%と選択率が減少しており、1992年調査から2003年調査では8ポイント減少している。「社会的な尊敬」を重視しない傾向が強まっているようである。他方、「お金のもうかる仕事」と「責任のある仕事」の2項目では、1992年調査から2003年調査にかけて大きな変化はみられない。

また、各調査での性別・学年別の偏りに配慮するため、1992年調査と2003年調査に関して性別・学年別の変化をみてみた(表3-5)。すると、女子と1年生において、「お金のもうかる仕事」の選択率が高まる傾向がみられた。しかし、「社会的な尊敬」を重視しない傾向の強まりはいずれでもみ

られ、男子および1年生と3年生では「責任のある仕事」も選択率が低下している。

このように、会社選択と比較すると、全体として長期的な変化の傾向をみいだすことが可能なように思われる。すなわち、「やる気にとみ、モーレツな生き方をする人生」を選択する率が減少しており、厳しい仕事が敬遠される傾向にあるといえよう。

3) 会社と仕事の選択基準の関係

このような厳しい仕事を敬遠する高校生の仕事選択の意識は、第2節でみた実力主義を重視する会社選択の意識と一見矛盾するようにも思われる。そこで両者がどのような関係にあるのかを連関の測度であるグッドマン・クラスカルガンマ係数を用いてみてみた。

表3-6をみると、質問がダブルバーレルになっているものが多いこともあり、あまり明確とはいえないが、会社と仕事の選択基準にはある程度

■表3-4 仕事選択の基準(2003年)×性・学年

(%)

	全体	性別		学年		
		男子	女子	1年	2年	3年
新しい技術をおぼえるため、いつも勉強しなければならないが、社会的にとっても尊敬される	46.0	51.1	42.0	42.6	44.4	52.8
朝早くから夜おそくまで働かなければならないが、ふつうの3倍くらいお金のもうかる仕事	31.3	34.1	29.2	34.0	27.1	31.8
会社の中でたくさんの部下をもち、責任のある仕事をしているが、日曜日などほとんど休めない	19.4	20.6	18.5	15.1	18.6	26.6

注) >と<は0.1水準で、>と<は0.5水準で統計的に有意な差(χ^2 検定の結果)。

■表3-5 仕事選択の基準の変化×性・学年

(%)

	全体			性別		学年					
						1年		2年		3年	
	80	92	03	92	03	92	03	92	03	92	03(年)
新しい技術をおぼえるため、いつも勉強しなければならないが、社会的にとっても尊敬される	63.6	54.0	46.0	57.3	51.1	49.8	42.0	52.7	42.6	53.0	44.4
朝早くから夜おそくまで働かなければならないが、ふつうの3倍くらいお金のもうかる仕事	38.8	30.3	31.3	36.0	34.1	23.0	29.2	28.5	34.0	30.6	27.1
会社の中でたくさんの部下をもち、責任のある仕事をしているが、日曜日などほとんど休めない	38.8	23.4	19.4	29.1	20.6	16.2	18.5	21.4	15.1	22.8	18.6

注) 矢印は、5ポイント以上変動のあるもの。

■表3-6 会社と仕事の選択基準の関係(2003年)

		会社選択基準				
仕事選択基準	新しい技術をおぼえるため、いつも勉強しなければならないが、社会的にとっても尊敬される 朝早くから夜おそくまで働かなければならないが、ふつうの3倍くらいお金のもうかる仕事 会社の中でたくさんの部下をもち、責任のある仕事をしているが、日曜日などほとんど休めない	仕事は大変だが給料のとてもよい会社	名前が通っていないが、実力次第で大きな仕事のできる会社	学歴にとらわれず、実力第一主義の経営方針をとる会社	仕事はつまらないが非常に安定した会社	将来の出世は難しいかもしれないが世間に名の通った一流企業
		0.169**	0.298**	0.155**	-0.261**	0.103*
		0.571**	0.126*	0.146**	0.005	0.161**
		0.254**	0.320**	0.262**	-0.273**	0.100

注) 数値は、Goodman and Kruskal's γ 。 γ は、値が大きいほど変数間の関連が強いことを示し、-1から+1までの値をとる。値がプラスの場合は正の関係、マイナスの場合は負の関係にあることを意味する。*は5%水準で、**は1%水準で統計的に有意(有意性の検定結果)。
会社選択基準は肯定的な順に5~1の値を与えている。仕事選択意識は、選択されている場合には2、選択されていない場合は1の値を与えている。

の一貫性がみいだされる。例えば、「仕事は大変だが給料のとてもよい会社」は、「お金のもうかる仕事」との間に「お金」という点で最も強い正の関連があり、「大変な仕事」という点で他の2項目とも関連がある、と解釈することが可能である。また、「大きな仕事のできる会社」や「実力第一主義の会社」は、「大変な仕事」という点で3項目すべてと正の関連があると、理解することができる。

これらの結果をふまえると、高校生が安易な働き方を望んでいるとは必ずしもいえないように思われる。むしろ、会社選択の基準にみられるように働くことにこだわりをもちつつも、仕事以外の他の生活も大切にしたいと思っている、と考えることができるのではないだろうか。この「働くことへのこだわり」と「生活における仕事の中心性の低下」は、若年層の失業・雇用問題とも何らかの関連性をもちそうである。この点については、最後のまとめで述べることにしよう。

4. 高校生がなりたい職業

1) なりたい職業の現在

本節では、高校生がなりたいと思う職業について

てみてみよう。本調査では、15個の職業をあげ、なりたいと思うものを選択してもらっている（複数選択可）。

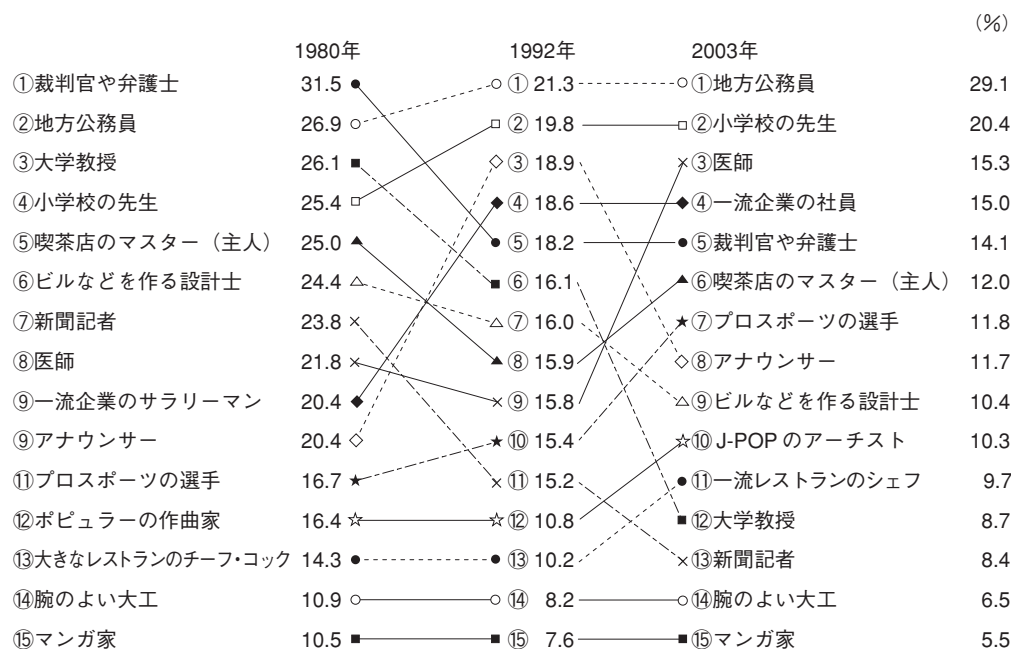
図3-4をみると、2003年調査で選択率の高い職業は、「地方公務員」29.1%、「小学校の先生」20.4%である。逆に選択率の低い職業は、「マンガ家」5.5%、「腕のよい大工」6.5%となっている。全体の傾向としては、いわゆる安定志向が強いようである。

また、表3-7は、なりたい職業を性別・学年別にみたものである。学年別に比べ性別で差のみられる項目が多くなっている。女子よりも男子で選択率の高い項目は、「プロスポーツの選手」や「腕のよい大工」など7項目である。反対に、女子で選択率の高い項目は、「アナウンサー」と「小学校の先生」の2項目となっている。「会社選択」や「仕事選択」と比較すると、ジェンダーの影響が強くあらわれている。

2) なりたい職業の変化

次に、なりたい職業を時系列でみてみよう。図3-4をみると、最も大きな変化は、「地方公務員」と「小学校の先生」以外の職業で、おおむね選択率が下がっていることである。この理由はよ

■図3-4 なりたい職業



注) 丸数字は順位。数値は選択率(%)。複数選択可。2003年調査では、「一流企業のサラリーマン」は「一流企業の社員」に、「ポピュラーの作曲家」は「J-POPのアーティスト」に、「大きなレストランのチーフ・コック」は「一流レストランのシェフ」に、それぞれ変更されている。

くわからないが、職業に対する選好の多様化の影響が考えられる。

また、順位に着目すると、順位が下降傾向にあるのは、「大学教授（3→6→12）」「新聞記者（7→11→13）」「裁判官や弁護士（1→5→5）」の3項目である。他方、順位が上昇傾向にある項目は、「医師（8→9→3）」「プロスポーツの選手（11→10→7）」「一流企業の社員（9→4→4）」

の3つである。また、「地方公務員（2→1→1）」と「小学校の先生（4→2→2）」は、順位が上位で安定している。

変化を性別、学年別でみると表3-8のようになる。かなり男女差や学年差もみられるが、おおむね2つ傾向を指摘することが可能なように思われる。1つは、「地方公務員」と「小学校の先生」の選択率と順位のある程度一貫した高さからうか

■表3-7 なりたい職業（2003年）×性・学年

(%)

	全体	性別			学年		
		男子	女子		1年	2年	3年
①地方公務員	29.1	① 34.0	① 25.2 **		① 28.6	① 29.5	① 29.4
②小学校の先生	20.4	⑥ 15.6	② 24.2 **		③ 20.8	② 23.7	③ 16.4
③医師	15.3	④ 17.9	④ 13.2 *		② 21.0	⑩ 9.5	⑦ 12.9 **
④一流企業の社員	15.0	③ 18.6	⑥ 12.2 **		⑥ 13.8	⑥ 11.5	② 20.3 **
⑤裁判官や弁護士	14.1	⑤ 16.1	⑤ 12.5		④ 15.8	④ 12.5	⑤ 13.3
⑥喫茶店のマスター（主人）	12.0	⑨ 11.8	⑥ 12.2		⑨ 9.1	③ 14.9	⑤ 13.3 *
⑦プロスポーツの選手	11.8	② 21.5	⑭ 4.1 **		⑤ 14.3	⑪ 9.2	⑧ 10.8
⑧アナウンサー	11.7	⑭ 6.6	③ 15.7 **		⑦ 12.9	⑥ 11.5	⑩ 10.1
⑨ビルなどを作る設計士	10.4	⑦ 14.7	⑪ 7.0 **		⑨ 9.1	⑪ 9.2	④ 13.6
⑩J-POPのアーティスト	10.3	⑫ 9.8	⑧ 10.7		⑧ 10.5	⑥ 11.5	⑫ 8.7
⑪一流レストランのシェフ	9.7	⑪ 11.1	⑩ 8.6		⑪ 8.8	⑨ 9.8	⑧ 10.8
⑫大学教授	8.7	⑧ 12.7	⑬ 5.5 **		⑫ 8.1	⑬ 8.5	⑪ 9.8
⑬新聞記者	8.4	⑬ 7.3	⑨ 9.3		⑭ 5.7	⑤ 11.9	⑫ 8.7 *
⑭腕のよい大工	6.5	⑨ 11.8	⑮ 2.3 **		⑬ 6.4	⑭ 5.8	⑭ 7.3
⑮マンガ家	5.5	⑮ 4.5	⑫ 6.3		⑮ 5.0	⑭ 5.8	⑮ 5.9

注）丸数字は全体および各属性内での順位。数値は選択率（%）。複数選択可。**は1%水準で、*は5%水準で選択率に統計的に有意な差（ χ^2 検定の結果）。

■表3-8 なりたい職業の変化×性・学年

(%)

	全体			性別				学年					
	80	92	03	男子		女子		1年		2年		3年	
地方公務員	②26.9	①21.3	①29.1	②23.7	①34.0	③18.3	①25.2	①23.1	①28.6	①20.5	①29.5	⑪12.6	①29.4
小学校の先生	④25.4	②19.8	②20.4	⑨14.7	⑥15.6	②26.3	②24.2	②21.8	③20.8	③18.7	②23.7	⑨14.0	③16.4
医師	⑧21.8	⑨15.8	③15.3	⑧16.1	④17.9	⑥15.3	④13.2	⑤17.7	②21.0	⑪13.5	⑩9.5	⑤18.9	⑦12.9
一流企業の社員	⑨20.4	④18.6	④15.0	①24.9	③18.6	⑩10.7	⑥12.2	⑥16.3	⑥13.8	②20.2	⑥11.5	③23.1	②20.3
裁判官や弁護士	①31.5	⑤18.2	⑤14.1	④20.1	⑤16.1	⑤15.8	⑤12.5	④19.5	④15.8	⑨15.8	④12.5	②27.3	⑤13.3
喫茶店のマスター（主人）	⑤25.0	⑧15.9	⑥12.0	⑦16.6	⑨11.8	⑦15.1	⑥12.2	⑪14.0	⑨9.1	⑤18.4	③14.9	⑫11.9	⑤13.3
プロスポーツの選手	⑪16.7	⑩15.4	⑦11.8	④20.1	②21.5	⑫9.5	⑭4.1	⑧15.0	⑤14.3	⑧16.0	⑪9.2	⑦14.7	⑧10.8
アナウンサー	⑨20.4	③18.9	⑧11.7	⑫11.4	⑭6.6	①28.5	③15.7	③20.0	⑦12.9	④18.6	⑥11.5	⑩13.3	⑩10.1
ビルなどを作る設計士	⑥24.4	⑦16.0	⑨10.4	③20.5	⑦14.7	⑪10.2	⑪7.0	⑨14.7	⑨9.1	⑥16.5	⑪9.2	④21.7	④13.6
J-POPのアーティスト	⑫16.4	⑫10.8	⑩10.3	⑭10.8	⑫9.8	⑨10.8	⑧10.7	⑫10.9	⑧10.5	⑬10.9	⑥11.5	⑭9.1	⑫8.7
一流レストランのシェフ	⑬14.3	⑬10.2	⑪9.7	⑪11.6	⑪11.1	⑬8.5	⑩8.6	⑬8.9	⑪8.8	⑫11.3	⑨9.8	⑫11.9	⑧10.8
大学教授	③26.1	⑥16.1	⑫8.7	⑥18.7	⑧12.7	⑧12.9	⑬5.5	⑩14.1	⑫8.1	⑦16.4	⑬8.5	①28.7	⑪9.8
新聞記者	⑦23.8	⑪15.2	⑬8.4	⑩13.5	⑬7.3	④17.2	⑨9.3	⑦15.1	⑭5.7	⑩14.9	⑤11.9	⑥16.8	⑫8.7
腕のよい大工	⑭10.9	⑭8.2	⑭6.5	⑬11.2	⑨11.8	⑮4.5	⑮2.3	⑮6.8	⑬6.4	⑭8.8	⑭5.8	⑦14.7	⑭7.3
マンガ家	⑮10.5	⑮7.6	⑮5.5	⑮8.8	⑮4.5	⑭6.1	⑫6.3	⑭8.2	⑮5.0	⑮6.8	⑭5.8	⑭9.1	⑮5.9

注）職業は2003年の全体順位の順。丸数字は年度ごとの全体および各属性内での順位。数値は選択率（%）。複数選択可。矢印は、3ランク以上順位に変化のある項目。

がえる安定志向の強さである。もう1つは、「新聞記者」や「大学教授」など堅いイメージの専門的な職業の人気の著しい低落である。

前回の分析では、同じような傾向が「ビッグな仕事を目指そうとする者が少なく」、「高校生たちが小粒になった」ためと解釈されている。確かに安定志向は強い。しかし、「医師」や「プロスポーツの選手」では順位が上昇しており、必ずしも「高校生たちが小粒になった」とはいえないのではないか。「社会的な尊敬」を重視する高校生が減ったことをふまえると、「新聞記者」や「大学教授」などの職業が高校生にとって魅力的ではなくなったと考えることもできるだろう。

5. 「学ぶこと」と「働くこと」

最後に、第2章でみた「進学」や「学歴」に関する意識と「働くこと」に関する意識の関係をみてみることにしよう。紙幅の関係から詳細な分析

を掲載することはできないが、結論を先取りすれば、「会社や仕事の選択」と「大学を選択」に関する意識にはある程度一貫性がみられるということになる。

表3-9は、会社と仕事の選択基準の関係をみたのと同様に、「会社や仕事の選択基準」と「大学の選択基準」との関係をガンマ係数によって示したものである。全体的に係数の値は高くないが、ある程度の傾向を読みとることができる。例えば、志望大学を決める際に「世間的に名前が知られている」ことが重要と答える高校生は、会社を選択する際に「世間に名の通った一流企業」に入社したいとする傾向がある。また、大学に「伝統」を求める高校生は、仕事を選ぶときに「社会的な尊敬」を重視している。そして、学歴の価値が今後「上がる」と考えている高校生は、「実力第一主義の会社」を敬遠し、「安定した会社」や「一流企業」に魅力を感じている。

■表3-9 「会社や仕事」と「大学」の選択基準の関係（2003年）

		大学選択基準								学歴評価
		就職状況 がよさそ うだ	授業料が 安い	入学する のが難 しい	優秀な教 授陣がそ ろって いる	世間的に 名前が知 られて いる	受験科目 が少ない	その大学 が家から 通える範 囲にある	伝統のある 大学で ある	
会社 選 択 基 準	仕事は大変だが給料のとてもよい会社	0.290**	0.188**	0.153**	0.132**	0.103*	0.076	-0.043	0.043	0.058
	名前は通っていないが、実力次第で大きな仕事のできる会社	0.016	0.147**	0.018	0.200**	-0.061	0.000	-0.076	0.054	-0.045
	学歴にとらわれず実力第一主義の経営方針をとる会社	0.053	0.092*	0.022	0.156**	-0.079	0.034	-0.064	0.014	-0.133**
	仕事はつまらないが非常に安定した会社	0.146**	0.128**	0.079	-0.023	0.149**	0.171**	0.152**	0.015	0.129**
	将来の出世は難しいかもしれないが世間に名の通った一流企業	0.062	0.006	0.168**	0.084*	0.294**	0.059	0.060	0.156**	0.159**
仕事 選 択 基 準	新しい技術をおぼえるため、いつも勉強しなければならないが、社会的にとっても尊敬される	0.033	-0.045	0.012	0.228**	0.203**	-0.171**	-0.086	0.326**	-0.017
	朝早くから夜おそくまで働かなければならないが、ふつうの3倍くらいお金のもうかる仕事	0.070	-0.004	0.034	0.059	0.187**	0.022	-0.175**	0.115*	-0.020
	会社の中でたくさんの部下をもち、責任のある仕事をしているが、日曜日などほとんど休めない	0.001	-0.121	-0.025	0.125	0.175**	-0.151*	-0.112	0.226**	-0.037

注) 数値は、Goodman and Kruskal's γ 。 γ は、値が大きいほど変数間の関連が強いことを示し、-1から+1までの値をとる。値がプラスの場合は正の関係、マイナスの場合は負の関係にあることを意味する。*は5%水準で、**は1%水準で統計的に有意（有意性の検定結果）。■は、統計的に有意な関連がみられるもの。
仕事選択意識は、選択されている場合には2、選択されていない場合は1の値を与えている。大学選択意識と学歴意識は肯定的な順に4～1の値を与えている。

6. 若者だけが変わればよいのか？ —まとめて代えて

今回の調査結果は全体として変化があまり大きくなく、目新しい知見もみられなかったかもしれない。しかし、高校生の意識において「働くことへのこだわり」と「生活における仕事の中心性の低下」の両者が同居しているという点は、注目に値すると思われる。この点から、私たちおとなが若年層の失業・雇用問題について議論する際に考慮すべきと思われることを述べ、まとめて代えたい。

一見すると、「働くことへのこだわり」と「仕事の中心性の低下」の同居という結果は、失業・雇用問題の1つの要因とされるような、問題とされるべき「若者のわがままさ」や「若者の就業意識の低さ」をあらわしているように思われるかもしれない。しかし、本当にそうなのだろうか。というのも、「働くことへのこだわり」と「仕事の中心性の低下」は、何も若者に限ったものではないからだ。

例えば、国民生活選好度調査をみると、若者に限らず「働くことへのこだわり」は強まっている。「希望する職業への転職が容易なこと」を重要とする割合は、若干減少した時期もあるが長期的にみれば増加傾向にある（内閣府国民生活局[2003]）。また、NHK放送文化研究所の「日本人の意識」調査では、若者に限らず一貫して「余暇志向」や「仕事・余暇両立」が増加し、「仕事志向」は低下している（NHK放送文化研究所[2000]）。

「国民生活に関する世論調査」において、「心の豊かさ」を求める人の割合が「物質的な豊かさ」を求める人の割合をはじめて超えたのは1976年である。このような社会に育った若者にとって、「働くことにこだわり」をみせつつ、「生活における仕事の中心性」が低下しても、ある意味当然かもしれない。いやむしろ、私たち自身も、仕事における自己の実現を称揚しつつ、仕事だけでなく家庭や余暇も大切にするような生活を目標として掲げてきたのではないか。

近年、若年層の失業・雇用問題に関して、国や経済団体などから様々な提言や施策が打ち出されている⁷⁾。ここでその詳細について述べる余裕はないが、多くの提言や施策に共通しているのは、

職業能力や就業意識を高めるという方向で、「若者を変える」という視点からなされているということである。なかには企業側に変革を迫るものもあるが、基本的には「若者」が問題とされている。若年層の雇用に関する施策なのだから、ある意味あたりまえと思われるかもしれない。しかし、「若者」のみが問題視されることで、ややもすると、現在の雇用システムは適応すべき前提とされ、その問題性が看過される可能性もある。雇用システム自体の変革は別の問題であり、それはそれとして行えばよい、とわかっていてよいのだろうか。

無論、職業能力を高めるような教育制度やキャリア形成を支援していく施策が必要ないといっているわけではない。それは確かに重要である。ただし、若者を変えるだけで事態は本当に改善されるのであろうか。フリーター問題をはじめ若年層の失業・雇用問題で多くの研究・発言を行っている労働政策研究・研修機構の小杉礼子は、「若者・子供たちが、刹那ではない将来の自分を肯定的に描けるかどうかは大人の生き方にかかっている」とし、「夢やロマンを語り継ぐことも重要」と指摘している（小杉[2003b]）。

しかし、どれだけのおとなが充実した職業生活や家庭生活を送っているのだろうか。NHK放送文化研究所の2002年の調査によれば、「お父さんの仕事は、私からみて生きがいのあるものだ」と思っている高校生は55.3%、「お母さんの生活は、私からみて生きがいのあるものだ」は55.2%である（NHK放送文化研究所[2003]）。この5割という数字は、思いのほか高いといえるかもしれない。社会学者の山田昌弘[2000]はフリーターを「夢見る使い捨て労働力」だと指摘しているが、私たち自身も「明日の使い捨て労働力」なのかもしれないのだから（否、「今日から」かもしれないし、「もうすでに」かもしれないが…⁸⁾）。

次代を担う若者が変われば徐々に雇用システムや社会も変化していくかもしれない。しかしそれだけでなく、私たちおとなも自らの「働き方」を見直し、たとえ平凡であったとしても充実した職業生活や家庭生活を送れるような雇用システムや社会を築く努力をする必要があるのではないだろうか。若者を変えることを求めるのであれば、「夢やロマンを語り継ぐ」前に、私たち自身も変わらねばなるまい。若年層の失業・雇用問題は私たち自身の問題でもある。

【注】

- 1) 小杉らのフリーターの定義は、「15-34歳で在学しておらず、女性には未婚の者のうち、パートアルバイト雇用者及び無業で通学も家事もしておらず、パートアルバイトを希望する者」となっている。また、使用されているデータは、1982年と1992年は総務省「就業構造基本調査」、2001年は総務省「労働力調査特別調査」。
- 2) 若者の失業率は、中高年とは異なり自発的失業による部分も多く、単純には比較できない。しかし、これを「若者のわがまま」という観点からのみ理解することにも問題がある。この点については玄田 [2001] を参照。
- 3) 「日本型雇用システム」の変容に関しては、岩田 [2002] を参照。
- 4) 第1章や第2章でも述べられているが、3時点比較に関して主に次のような2つの限界がある。1つは、回答者の性別や学年が各調査によってかなり異なっていることである。もう1つは、過去のデータの再分析を行うことができず、過去のモノグラフに記載されている数値のみ使用可能なことである。
- 5) 本章で示される統計的な検定の結果は、あくまで参考としてあげていることをお断りしておく。本調査の対象者は無作為に抽出されたものではなく、高校生を代表するものとは言えない。したがって、分析の結果は、あくまで回答者の高校生についてのものである。しかしながら、限定されたデータとはいえ、より広い層の高校生の意識を検討していく何らかの手がかりを与えるものと考え、高校生を代表するサンプルであると仮定した場合の結果も示すこととした。
- 6) なお、今回の調査項目において、会社選択意識に劇的な変化はみられなかったが、前章の進学意識の結果をふまえると、「専門性」や「興味」を問うような質問があれば変化がみられたかもしれない。
- 7) 国の施策としては、例えば、すでに実施されている厚生労働省の「若年者トライアル雇用制度（事業）」を参照。これは、企業がハローワーク（公共職業安定所）から紹介された若年者を一定期間（原則3か月）試行的に雇い、その業務遂行能力を見極めたうえで、本採用するかしないかを定める制度である（実施状況に関しては、労働政策研究・研修機構 [2003:32] などを参照）。また、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、内閣府の4府省による若者自立・挑戦戦略会議の「若者・自立・挑戦プラン」（2003年6月10日）も参照。これは、就職支援や職場体験などのサービスをワンストップで提供する「ジョブカフェ」の整備や企業実習と教育訓練を組み合わせる「実務・教育連結型人材育成システム（日本版デュアルシステム）」の導入などを提言している（若者自立・挑戦戦略会議 [2003]）。経済団体の提言については、例えば日本経済団体連合会の「若者の職業観・就労意識形成・向上のために一企業ができる具体的提言」（2003年10月21日）を参照（日本経済団体連合会 [2003]）。
- 8) これは、単に雇用の流動化を否定しているわけではない。流動化は、その仕方によっては、働く者の自由を拡大するものといえる。

【参考文献・資料】

- 朝日新聞社 『朝日年鑑』 各年版
 千村典生 1996 『時代の気分を読むーヤングファッションの50年ー』 グリーンアロー出版社
 玄田有史 2001 『仕事のなかの曖昧な不安ー揺れる若年の現在ー』 中央公論新社
 岩田 考 2002 『社会学でわかる会社と仕事』 浅野智彦編著『図解 社会学のことが面白いほどわかる本』 中経出版
 自由国民社 『現代用語の基礎知識』 各年版
 小杉礼子 2003a 『フリーターという生き方』 勁草書房
 小杉礼子 2003b 『Column 若者の現状と必要な対応』 独立行政法人 労働政策研究・研修機構ウェブページ (<http://www.jil.go.jp/>)
 小杉礼子編 2002 『自由の代償／フリーター現代若者の就業意識と行動ー』 日本労働研究機構
 小谷 敏編 1993 『若者論を読む』 世界思想社
 厚生労働(労働)省大臣官房統計情報部 『労働統計年報』 各年版
 文部科学(文部)省 『学校基本調査報告書』 各年版
 内閣府編 2003a 『平成15年版 国民生活白書ーデフレと生活：若年フリーターの現在ー』 いまぎょうせい
 内閣府編 2003b 『平成15年版 経済財政白書ー改革なくして成長なしIII』 国立印刷局
 内閣府国民生活局編 2003 『平成14年度 国民生活選好度調査ー国民の意識とニーズ』 国立印刷局
 内閣府政策統括官(総合企画調整担当) 2004 『第7回 世界青少年意識調査 結果概要速報』 内閣府ウェブページ (<http://www8.cao.go.jp/youth/>)
 NHK放送文化研究所編 2000 『現代日本人の意識構造 [第五版]』 (NHKブックス880) 日本放送出版協会
 NHK放送文化研究所編 2003 『中学生・高校生の生活と意識調査ー楽しい今と不確かな未来ー』 日本放送出版協会
 日本経済団体連合会 2003 『若年者の職業観・就労意識の形成・向上のために一企業ができる具体的施策の提言ー』 社団法人日本経済団体連合会ウェブページ (<http://www.keidanren.or.jp/indexj.html>)
 リクルートワークス研究所 『大卒求人倍率調査』 リクルートワークス研究所ウェブページ (<http://www.works-i.com/>)
 労働政策研究・研修機構 『月刊 Business Labor Trend』 (11月号)
 労働省編 2000 『平成12年版 労働白書ー高齢社会の下での若年と中高年ベストミックス』 日本労働研究機構
 総務省(庁)統計局 『労働力調査年報』 各年版
 集英社 『imidasー情報・知識』 各年版
 若者自立・挑戦戦略会議 2003 『若者・自立・挑戦プラン』 政府公報オンラインウェブページ (<http://www.gov-online.go.jp/index.html>)
 山田昌弘 2001 『家族というリスク』 勁草書房
 読売新聞社 『読売年鑑』 各年版

第4章

######

生はどういう行動をとるのか。「夜中に長電話をする」や「手をつないだり、腕を組んだりして歩く」など10項目を示して、2人だけでしたことがあるかを尋ねてみた。詳しい数値は表4-3の通りだが、これを要約したのが表4-2となる。1980年と対比すると、「キスをする」が1980年の6.5%から2003年の20.8%へと14.3ポイント、そし

て、「手をつないだり、腕を組んだりして歩く」が1980年の10.7%から2003年の22.7%へと12.0ポイント増加している。その他の項目も、この2項目ほどでないまでも、合計8項目で数値が高まっている。つきあう相手がいる割合はそれほど高まっていないが、つきあい方は深まっているような印象を受ける。

■表4-2 2人だけでしたこと

	1980年	1992年	2003年	(%) 2003年—1980年
夜中に長電話をする	13.7	17.5	23.1	9.4
手をつないだり、腕を組んだりして歩く	10.7	12.1	22.7	12.0
ファーストフード店でおしゃべりをする	18.8	13.0	15.8	-3.0
キスをする	6.5	8.7	20.8	14.3
誕生日にプレゼントをする	10.5	9.9	11.5	1.0
お互いの持ち物を交換する	7.1	7.4	11.3	4.2
将来の生活設計を一生懸命に話し合う	2.8	5.6	8.8	6.0
ラブホテルへ行く	1.3	3.2	1.9	0.6
2人でカラオケボックスへ行く (1980年と1992年は個室喫茶)	1.4	2.6	5.3	3.9
泊まりがけで旅行に出かける	1.2	2.2	0.9	-0.3

「何度も」＋「4～5回」ある割合

■表4-3 2人だけでしたこと×性

			何度もある	4～5回ある	1～2回ある	(%) 1度もない
夜中に長電話をする	全体	1980年	8.9	4.8	9.3	77.0
		1992年	12.0	5.5	9.7	72.8
		2003年	15.4	7.7	14.2	62.6
	男子	1980年	8.4	4.5	9.2	77.9
		1992年	12.1	4.7	9.1	74.1
		2003年	14.3	5.4	14.3	66.0
	女子	1980年	9.4	5.2	9.5	75.9
		1992年	11.9	6.6	10.5	71.0
		2003年	16.4	9.6	14.2	59.9
手をつないだり、腕を組んだりして歩く	全体	1980年	6.8	3.9	12.7	76.6
		1992年	8.8	3.3	10.7	77.2
		2003年	17.1	5.6	15.5	61.8
	男子	1980年	7.3	4.1	12.9	75.7
		1992年	9.3	3.3	10.1	77.3
		2003年	17.3	5.2	14.8	62.8
	女子	1980年	6.4	3.7	12.5	77.4
		1992年	8.0	3.2	11.4	77.4
		2003年	17.0	5.9	16.1	61.0
ファーストフード店で おしゃべりをする	全体	1980年	12.1	6.7	17.4	63.7
		1992年	8.0	5.0	16.5	70.5
		2003年	9.6	6.2	20.4	63.8
	男子	1980年	11.8	6.0	15.7	66.5
		1992年	8.3	4.6	14.3	72.8
		2003年	9.1	5.6	17.3	67.9
	女子	1980年	12.5	7.5	19.5	60.5
		1992年	7.7	5.5	19.6	67.2
		2003年	9.9	6.6	22.8	60.6

※次ページへつづく

			(%)			
			何度もある	4～5回ある	1～2回ある	1度もない
キスをする	全体	1980年	5.0	1.5	4.4	89.1
		1992年	7.0	1.7	3.4	87.9
		2003年	17.7	3.1	8.6	70.6
	男子	1980年	5.5	1.3	4.6	88.6
		1992年	7.9	1.4	3.6	87.1
		2003年	17.9	2.8	8.0	71.2
	女子	1980年	4.4	1.7	4.1	89.8
		1992年	5.9	2.0	3.0	89.1
		2003年	17.5	3.3	9.0	70.1
誕生日にプレゼントをする	全体	1980年	4.6	5.9	33.8	55.7
		1992年	5.2	4.7	32.8	57.3
		2003年	5.9	5.6	31.5	57.0
	男子	1980年	4.4	5.5	28.4	61.7
		1992年	5.8	4.3	26.8	63.1
		2003年	5.9	5.9	27.2	61.1
	女子	1980年	4.8	6.3	40.2	48.7
		1992年	4.2	5.2	40.7	49.9
		2003年	5.9	5.3	35.0	53.8
お互いの持ち物を交換する	全体	1980年	3.9	3.2	17.1	75.8
		1992年	4.5	2.9	17.1	75.5
		2003年	6.7	4.6	20.0	68.7
	男子	1980年	4.1	3.1	15.6	77.2
		1992年	5.5	2.9	15.1	76.5
		2003年	7.3	4.0	19.0	69.8
	女子	1980年	3.7	3.4	18.8	74.1
		1992年	3.1	2.9	19.7	74.3
		2003年	6.3	5.2	20.8	67.8
将来の生活設計を一生懸命に話し合う	全体	1980年	1.8	1.0	5.9	91.3
		1992年	3.5	2.1	6.3	88.1
		2003年	4.7	4.1	11.3	79.9
	男子	1980年	1.8	0.9	4.5	92.8
		1992年	3.9	1.5	4.4	90.2
		2003年	4.2	3.8	8.0	84.0
	女子	1980年	1.7	1.2	7.5	89.6
		1992年	3.1	3.0	8.9	85.0
		2003年	5.0	4.4	13.9	76.7
ラブホテルへ行く	全体	1980年	0.8	0.5	0.7	98.1
		1992年	2.8	0.4	0.8	96.0
		2003年	1.3	0.6	2.5	95.5
	男子	1980年	1.0	0.5	0.8	97.7
		1992年	4.3	0.6	0.9	94.2
		2003年	1.9	0.7	1.4	96.0
	女子	1980年	0.5	0.4	0.5	98.6
		1992年	0.6	0.1	0.6	98.7
		2003年	0.9	0.6	3.3	95.2
2人でカラオケボックスへ行く (1980年と1992年は個室喫茶)	全体	1980年	1.0	0.4	1.4	97.2
		1992年	2.0	0.6	1.4	96.0
		2003年	3.9	1.4	6.7	87.9
	男子	1980年	1.5	0.4	1.3	96.8
		1992年	3.1	0.9	1.3	94.7
		2003年	4.4	1.9	6.3	87.4
	女子	1980年	0.5	0.3	1.5	97.7
		1992年	0.5	0.2	1.6	97.7
		2003年	3.5	1.1	7.0	88.4
泊まりがけで旅行に出かける	全体	1980年	1.0	0.2	0.9	98.0
		1992年	1.9	0.3	1.8	96.0
		2003年	0.7	0.2	2.0	97.1
	男子	1980年	1.3	0.2	0.9	97.6
		1992年	3.1	0.4	2.0	94.5
		2003年	1.4	0.0	2.6	96.0
	女子	1980年	0.6	0.1	0.9	98.4
		1992年	0.2	0.1	1.4	98.3
		2003年	0.2	0.4	1.5	98.0

2. 結婚のかたち

それでは、高校生はどういう家庭を作ろうとしているのか。表4-4は、1980年の数値がない項目だが、男子が、結婚相手に「年下」を望む割合は1992年の45.7%から2003年の28.7%へと17.0ポイント低下している。また、女子で「年上」を望む割合は71.9%から63.7%へと8.2ポイント低くな

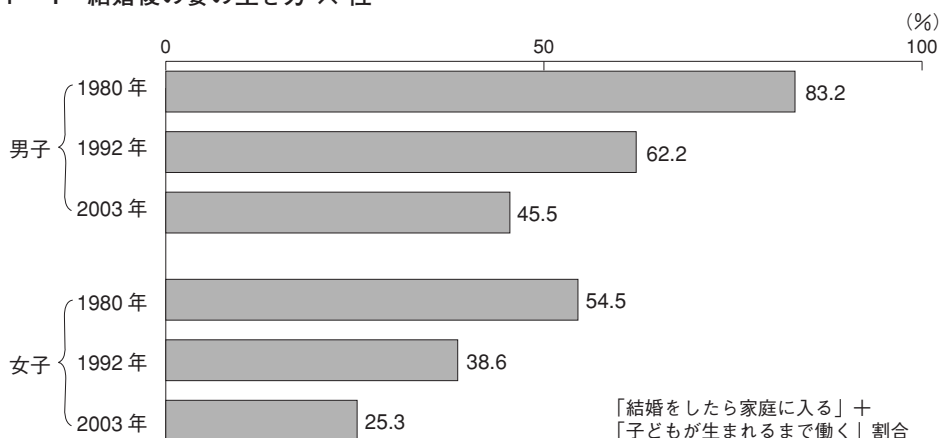
っている。そうした意味で、男女ともに、同じ年の夫婦を望む気持ちが強まっている。

図4-1(表4-5)に、結婚後の妻の生き方についての高校生の気持ちを示した。1980年、専業主婦の生き方を望む者は、女子の場合、54.5%と過半数に達した。しかし、1992年の38.6%を経て、2003年は25.3%と、専業主婦志向は全体の4分の1にとどまっている。そして、男子も、妻に専業主婦を望む者は1980年では83.2%に達する。

■表4-4 結婚相手との年齢差×性

		ずっと十 3～5歳年下	1～2歳 年下	年下 小計	同年	1～2歳 年上	3～5歳十 ずっと年上	年上 小計
男子	1992年	6.3	39.4	45.7	45.2	7.5	1.6	9.1
	2003年	3.9	24.8	28.7	58.3	11.8	1.1	12.9
女子	1992年	1.4	2.5	3.9	24.2	43.9	28.0	71.9
	2003年	0.9	2.2	3.1	33.2	44.4	19.3	63.7

■図4-1 結婚後の妻の生き方×性



■表4-5 結婚後の妻の生き方×性

		結婚をしたら 家庭に入る	子どもが生ま れるまで働く	家庭に 小計	子育てを終え たらまた働く	ずっと仕事を 持ち続ける	働く 小計
男子	1980年	58.8	24.4	83.2	9.5	7.3	16.8
	1992年	32.3	29.9	62.2	23.6	14.2	37.8
	2003年	20.0	25.5	45.5	32.0	22.6	54.6
女子	1980年	29.1	25.4	54.5	23.6	21.9	45.5
	1992年	19.5	19.1	38.6	33.3	28.1	61.4
	2003年	7.2	18.1	25.3	39.7	35.0	74.7

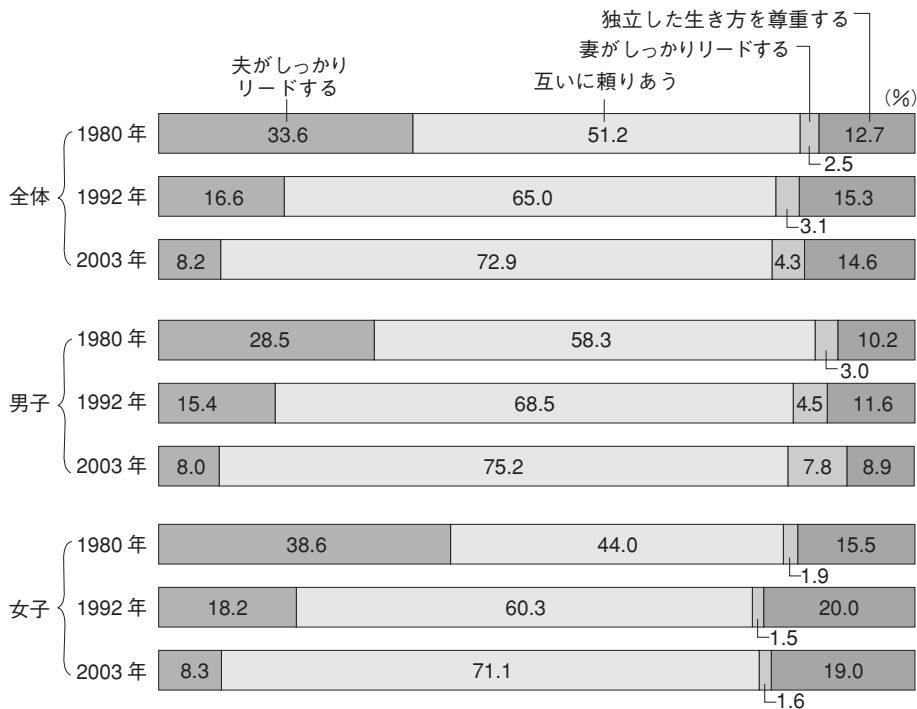
結婚とは専業主婦のいる家庭を作ることだったのであろう。しかし、1992年の62.2%を経て、2003年には45.5%と、専業主婦の妻を望む男子は半数を下回っている。したがって、20年の間に、高校生の抱く家庭像が「専業主婦のいる家庭から共働きの家庭へ」と変化しているのがわかる。

将来、結婚する家庭では、夫が仕事に出かけ、妻が専業主婦というかたちから、夫婦共に仕事を持つ共働き家庭へと変化している。さらに、図

4-2(表4-6)によれば、「夫がしっかりリードする」家庭を望む者は、1980年の33.6%から1992年の16.6%、そして2003年の8.2%へと減少している。それに対し、「互いに頼りあう」かたちを望む者は51.2%、65.0%、72.9%へと増加している。

このように、高校生たちの抱く家庭の姿は「専業主婦の妻がいて、夫がしっかりリードするかたち」から「夫婦が共に働き、互いに頼りあって暮らすかたち」へと変化している。

■図4-2 結婚後の夫婦のかたち×性



■表4-6 結婚後の夫婦のかたち×性

		夫がしっかりリードする	互いに頼りあう	妻がしっかりリードする	独立した生き方を尊重する
全体	1980年	33.6	51.2	2.5	12.7
	1992年	16.6	65.0	3.1	15.3
	2003年	8.2	72.9	4.3	14.6
男子	1980年	28.5	58.3	3.0	10.2
	1992年	15.4	68.5	4.5	11.6
	2003年	8.0	75.2	7.8	8.9
女子	1980年	38.6	44.0	1.9	15.5
	1992年	18.2	60.3	1.5	20.0
	2003年	8.3	71.1	1.6	19.0

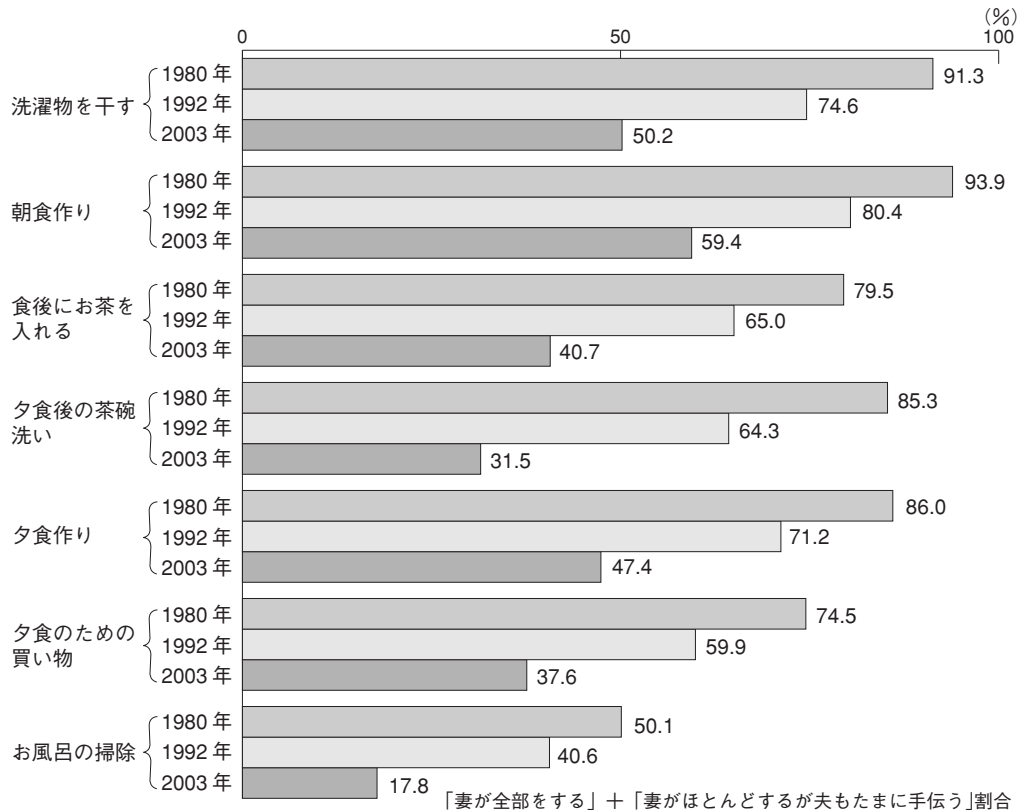
3. 家事の分担

それでは、もう少し具体的に家庭の姿を探ってみよう。家庭を作ると、家事労働が不可欠になる。その家事をどう分担しようと思っているのか。妻が主として家事を分担する割合は図4-3（表4-7）の通りとなる。1980年では、妻が「洗濯物を干す」が91.3%を占めたが、1992年の74.6%を経て、2003年には50.2%へと41.1ポイントも減少

している。また、「朝食作り」を「妻がする」も1980年の93.9%から、1992年の80.4%を経て、2003年の59.4%へと34.5ポイント数値が減っている。

1980年代には、家事を妻が担うと思うのがふつうだった。しかし、2003年になると、「妻に委ねる」割合はほとんどの項目において半数以下にとどまる（表4-8）。そうした傾向は、表4-9の男女別の集計でもみられ、男女共に、家事は妻が担う割合が低くなっている。

■図4-3 妻の家事分担



■表4-7 妻の家事分担

	(%)			
	1980年	1992年	2003年	1980年—2003年
洗濯物を干す	91.3	74.6	50.2	41.1
朝食作り	93.9	80.4	59.4	34.5
食後にお茶を入れる	79.5	65.0	40.7	38.8
夕食後の茶碗洗い	85.3	64.3	31.5	53.8
夕食作り	86.0	71.2	47.4	38.6
夕食のための買い物	74.5	59.9	37.6	36.9
お風呂の掃除	50.1	40.6	17.8	32.3

「妻が全部をする」＋「妻がほとんどするが夫もたまに手伝う」割合

■表 4－8 家事の分担

(%)

		妻が全部 をする	妻がほとんど するが夫も たまに手伝う	妻がする 小計	妻がだいたい するが夫も かなり手伝う	夫と妻が 同じくらい 分担する	夫が半分以上十 夫がほとんど する
洗濯物を干す	1980年	70.7	20.6	91.3	6.2	2.0	0.5
	1992年	38.2	36.4	74.6	13.5	10.4	1.5
	2003年	14.9	35.3	50.2	18.1	28.4	3.3
朝食作り	1980年	73.1	20.8	93.9	4.2	1.5	0.4
	1992年	38.1	42.3	80.4	11.0	7.8	0.8
	2003年	17.9	41.5	59.4	18.4	20.6	1.5
食後にお茶を入れる	1980年	55.0	24.5	79.5	10.4	8.9	1.2
	1992年	35.3	29.7	65.0	13.8	18.9	2.3
	2003年	18.1	22.6	40.7	14.2	37.6	7.4
夕食後の茶碗洗い	1980年	59.1	26.2	85.3	9.6	4.3	0.8
	1992年	28.4	35.9	64.3	16.8	15.6	3.3
	2003年	8.3	23.2	31.5	19.9	39.3	9.3
夕食作り	1980年	55.8	30.2	86.0	10.2	3.4	0.4
	1992年	26.9	44.3	71.2	18.0	10.0	0.8
	2003年	11.9	35.5	47.4	25.7	25.4	1.6
夕食のための買い物	1980年	42.0	32.5	74.5	17.3	7.6	0.6
	1992年	22.8	37.1	59.9	23.0	16.0	1.1
	2003年	10.3	27.3	37.6	22.0	37.2	3.2
お風呂の掃除	1980年	27.3	22.8	50.1	17.7	15.8	16.4
	1992年	16.0	24.6	40.6	16.6	23.6	19.2
	2003年	4.6	13.2	17.8	11.6	41.7	28.8

■表 4－9 妻の家事分担×性

(%)

	1992年	全体 2003年	差	1992年	男子 2003年	差	1992年	女子 2003年	差
洗濯物を干す	74.6	50.2	24.4	75.9	54.1	21.8	73.0	47.2	25.8
朝食作り	80.4	59.4	21.0	81.6	62.9	18.7	78.9	56.7	22.2
食後にお茶を入れる	65.0	40.7	24.3	62.7	34.6	28.1	68.1	45.5	22.6
夕食後の茶碗洗い	64.3	31.5	32.8	67.4	33.4	34.0	60.4	29.9	30.5
夕食作り	71.2	47.4	23.8	74.5	51.0	23.5	67.2	44.6	22.6
夕食のための買い物	59.9	37.6	22.3	62.6	36.9	25.7	56.5	38.1	18.4
お風呂の掃除	40.6	17.8	22.8	46.6	20.6	26.0	33.0	15.8	17.2

「妻が全部をする」＋「妻がほとんどするが夫もたまに手伝う」割合

4. 離婚の可能性

これまでの考察によると、「①家庭に専業主婦がいて、②夫がしっかりリードし、③家事は妻が分担する」性差を基本とする家庭から、「①共働きで、②夫婦が共に頼りあい、③家事を共にする」性差の少ない家庭へ、生徒たちの家族像は変化している。それでは、家庭をどの程度守ろうとしているのか。表4-10に示したように、「性格が合わない場合（子どもがいない場合）」離婚を考えている者は、1980年の58.6%から2003年の62.6%

へと、数値がほとんど変わっていない。

そして、「子どもが幼稚園児の場合」、離婚の割合は増加するのだろうか。表4-11の数値が示すように、1980年は16.4%、2003年も18.8%と、離婚する割合はほとんど変わっていない。少なくとも何かあったときに、離婚する割合は20年の間にあまり変化していないようにみえる。

5. 家庭生活イメージの変化

それでは結婚をしたら、高校生はどういう生活を送ろうとしているのか。結婚生活について、9

■表4-10 性格が合わない場合の離婚（子どもがいない場合）×性

(%)

		ぜったい 離婚しない	できれば 離婚しない	離婚しない 小計	たぶん 離婚する	ぜったい 離婚する	離婚する 小計
全体	1980年	8.0	33.4	41.4	42.0	16.6	58.6
	1992年	10.6	33.9	44.5	40.0	15.5	55.5
	2003年	8.8	28.6	37.4	42.6	20.0	62.6
男子	1980年	11.4	37.9	49.3	37.2	13.5	50.7
	1992年	14.9	39.2	54.1	34.8	11.1	45.9
	2003年	14.8	35.3	50.1	38.1	11.8	49.9
女子	1980年	4.6	28.8	33.4	46.8	19.8	66.6
	1992年	5.3	27.2	32.5	46.5	21.0	67.5
	2003年	4.1	23.3	27.4	46.1	26.4	72.5

■表4-11 性格が合わない場合の離婚（子どもが幼稚園児の場合）×性

(%)

		ぜったい 離婚しない	できれば 離婚しない	離婚しない 小計	たぶん 離婚する	ぜったい 離婚する	離婚する 小計
全体	1980年	25.0	58.6	83.6	13.3	3.1	16.4
	1992年	25.7	57.1	82.8	14.5	2.7	17.2
	2003年	24.0	57.1	81.1	15.5	3.3	18.8
男子	1980年	30.2	56.4	86.6	9.8	3.6	13.4
	1992年	30.6	55.3	85.9	11.1	3.0	14.1
	2003年	31.8	54.8	86.6	11.3	2.1	13.4
女子	1980年	19.7	60.8	80.5	16.9	2.6	19.5
	1992年	19.6	59.6	79.2	18.6	2.2	20.8
	2003年	18.0	58.9	76.9	18.9	4.3	23.2

項目の変化を表4-12に示した。

この結果をわかりやすくまとめると、以下のようになる。

1) 20年間に低下 (図4-4 参照) (%)

1980年 1992年 2003年 [80年-03年]

①結婚後は男性の姓 83.5>72.0>56.9 [26.6]

②結婚後、親と同居 42.4>32.5>28.3 [14.1]

③住まいは庭つき 80.2>78.8>73.9 [6.3]

④子どものしつけは妻 17.4>16.9>10.0 [7.4]

2) 20年間にやや低下

①夫の昼食は弁当 85.8>76.9<79.5 [6.3]

②既婚後の異性との

つきあいは慎重に 31.7>24.4 24.4 [7.3]

3) 20年間に変化が少ない

①妻が発熱、夫は出勤 39.5 29.0 34.9 [4.6]

②出産は早く 64.5 59.1 64.4 [0.1]

③日曜日に出勤 79.9 69.3 78.4 [1.5]

「20年間に低下」した項目の傾向を要約してみよう。

①結婚後は男性の姓→姓は自由に

②結婚後、親と同居→親とは別居

③住まいは庭つき→住まいはマンション

④子どものしつけは妻→夫婦でしつけ

■表4-12 結婚後の暮らし

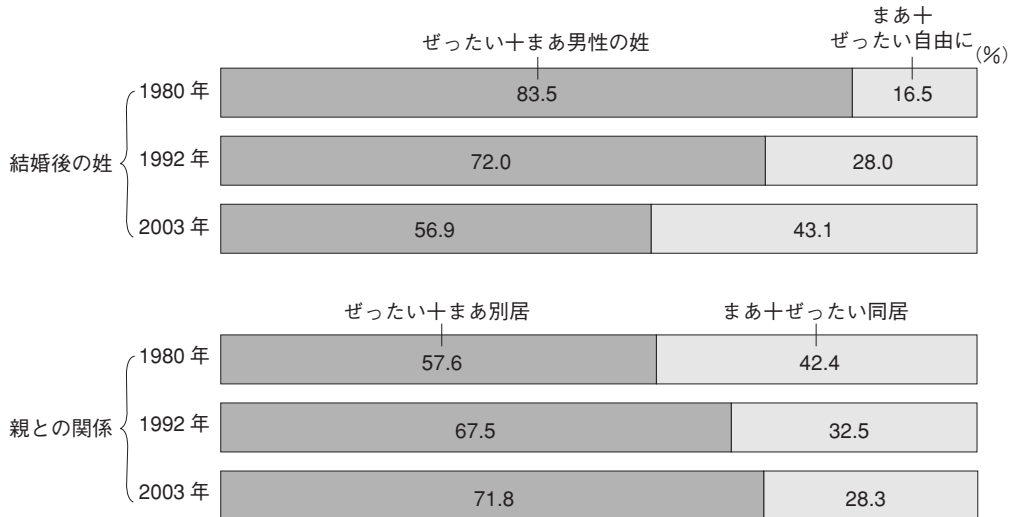
(%)									
(A)		ぜったい A		まあ A	小計 A	まあ B	ぜったい B	小計 B	(B)
結婚後の姓	男性の姓	1980年	56.0	27.5	83.5	12.1	4.4	16.5	自由に
		1992年	36.5	35.5	72.0	19.9	8.1	28.0	
		2003年	22.4	34.5	56.9	25.3	17.8	43.1	
親との関係	別居	1980年	23.7	33.9	57.6	36.7	5.7	42.4	同居
		1992年	33.0	34.5	67.5	28.5	4.0	32.5	
		2003年	34.9	36.9	71.8	24.8	3.5	28.3	
妻が発熱	会社休む	1980年	20.1	40.4	60.5	31.8	7.7	39.5	出勤
		1992年	27.1	43.9	71.0	24.2	4.8	29.0	
		2003年	23.4	41.7	65.1	28.3	6.6	34.9	
夫の昼食	弁当	1980年	33.7	52.1	85.8	11.8	2.4	14.2	外食
		1992年	20.1	56.8	76.9	19.9	3.2	23.1	
		2003年	17.9	61.6	79.5	18.3	2.2	20.5	
出産の時期	早く	1980年	16.2	48.3	64.5	29.6	5.9	35.5	遅く
		1992年	13.0	46.1	59.1	33.7	7.2	40.9	
		2003年	15.6	48.8	64.4	29.1	6.5	35.6	
日曜日に仕事	断る	1980年	4.7	15.4	20.1	62.7	17.2	79.9	出勤
		1992年	6.8	23.9	30.7	57.2	12.1	69.3	
		2003年	3.3	18.3	21.6	59.1	19.3	78.4	
既婚後の異性 とのつきあい	慎重に	1980年	6.9	24.8	31.7	53.0	15.3	68.3	自然に
		1992年	4.6	19.8	24.4	55.6	20.0	75.6	
		2003年	4.8	19.6	24.4	56.0	19.7	75.7	
住まい	マンション	1980年	3.0	16.8	19.8	51.7	28.5	80.2	庭つき
		1992年	3.0	18.2	21.2	49.9	28.9	78.8	
		2003年	2.8	23.2	26.0	52.1	21.8	73.9	
子どものしつけ	妻	1980年	3.3	14.1	17.4	36.2	46.4	82.6	夫婦
		1992年	2.9	14.0	16.9	34.1	49.0	83.1	
		2003年	1.2	8.8	10.0	28.8	61.1	89.9	

このように全体として、性差を固定的にとらえる見方が減少し、性差の少ない家庭を作りたいという気持ちが伝わってくる。

「結婚後の暮らし」についての見通しに性差が認められるかどうかは、表4-13（詳しくは表

4-14）に示した通りである。「結婚後は親と別居したい」「妻が発熱したら、会社を休む」「日曜日の仕事は断る」などは男子に多く、男子に家庭志向が強い。

■図4-4 結婚後の暮らし



■表4-13 結婚後の暮らし×性(1)

		(%)		
		1980年	1992年	2003年
結婚後の姓……自由に	男子	15.8	30.4	47.8
	女子	17.3	25.1	39.4
親との関係……別居	男子	58.2	70.3	77.1
	女子	56.9	64.0	67.6
妻が発熱……会社休む	男子	70.0	82.6	83.2
	女子	49.6	56.5	51.2
夫の昼食……外食	男子	19.7	25.0	19.0
	女子	7.6	20.7	21.6
日曜日に仕事…断る	男子	23.6	35.2	28.6
	女子	15.9	25.1	16.3

「まあ」+「ぜったい」の割合

■表 4-14 結婚後の暮らし×性(2)

(%)

(A)				ぜったい A	まあ A	小計 A	まあ B	ぜったい B	小計 B	(B)
結婚後の姓	男性の姓	1980年	男子	57.8	26.4	84.2	11.7	4.1	15.8	自由に
			女子	54.0	28.7	82.7	12.7	4.6	17.3	
		1992年	男子	33.1	36.5	69.6	22.1	8.3	30.4	
			女子	40.7	34.2	74.9	17.2	7.9	25.1	
		2003年	男子	15.9	36.3	52.2	27.9	19.9	47.8	
			女子	27.4	33.2	60.6	23.2	16.2	39.4	
親との関係	別居	1980年	男子	23.6	34.6	58.2	34.7	7.1	41.8	同居
			女子	23.9	33.0	56.9	39.0	4.1	43.1	
		1992年	男子	31.7	38.6	70.3	25.9	3.8	29.7	
			女子	34.6	29.4	64.0	31.7	4.3	36.0	
		2003年	男子	35.3	41.8	77.1	19.6	3.3	22.9	
			女子	34.6	33.0	67.6	28.7	3.6	32.3	
妻が発熱	会社休む	1980年	男子	26.5	43.5	70.0	24.3	5.7	30.0	出勤
			女子	12.7	36.9	49.6	40.5	9.9	50.4	
		1992年	男子	34.7	47.9	82.6	14.1	3.3	17.4	
			女子	17.4	39.1	56.5	36.9	6.6	43.5	
		2003年	男子	38.8	44.4	83.2	15.1	1.7	16.8	
			女子	11.6	39.6	51.2	38.4	10.4	48.8	
夫の昼食	弁当	1980年	男子	28.4	51.9	80.3	16.2	3.5	19.7	外食
			女子	39.8	52.6	92.4	6.6	1.0	7.6	
		1992年	男子	17.8	57.2	75.0	21.9	3.1	25.0	
			女子	23.0	56.3	79.3	17.4	3.3	20.7	
		2003年	男子	16.5	64.5	81.0	16.9	2.1	19.0	
			女子	19.0	59.4	78.4	19.3	2.3	21.6	
日曜日に仕事	断る	1980年	男子	6.4	17.2	23.6	57.7	18.7	76.4	出勤
			女子	2.7	13.2	15.9	68.6	15.5	84.1	
		1992年	男子	8.9	26.3	35.2	51.9	12.9	64.8	
			女子	4.2	20.9	25.1	63.9	11.0	74.9	
		2003年	男子	5.7	22.9	28.6	50.6	20.8	71.4	
			女子	1.5	14.8	16.3	65.6	18.2	83.8	

6. 老後の家庭生活

子どもの数についての変化は、1980年のデータはないが、1992年と対比すると、表4-15の通りとなる。「2人がよい」が、1992年の62.3%、2003年が62.4%で、ほとんど変化していない。

そして、結婚後の親との関係については、表4-16が示すように、「遠くに離れて住みたい」が、1992年の29.3%から2003年の38.6%へと9.3ポイント増加している。親との同居を避ける傾向が強まっている。

さらに自分の老後についても、表4-17が示す

ように、「子どものとなりの家あるいは同居」は、1992年の30.0%から2003年の22.8%へと7.2ポイント低下している。

このように20年の間に高校生が抱く家庭像は大きく変わった。80年代の高校生は、男女共に、「私作る人、僕食べる人」的な性差をふまえた家庭の姿を受け入れていた。しかし、2003年調査では、「私と僕は共に作り、共に食べる人」という共生型の家族像が抱かれている。ジェンダーフリーの共同参画型社会への動きが高校生の中に深く浸透しているのを感じる。

■表4-15 子どもの数×性

			(%)			
		いない	1 人	2 人	3 人	4 人以上
1992年	全体	4.5	7.2	62.3	21.7	4.3
	男子	3.6	7.6	63.4	20.3	5.1
	女子	5.7	6.6	60.9	23.4	3.4
2003年	全体	4.7	6.4	62.4	23.8	2.6
	男子	3.3	6.8	63.4	23.3	3.1
	女子	5.8	6.0	61.7	24.1	2.3

■表4-16 結婚後、親との関係×性

			(%)			
			同じ家に 住みたい	となりの家 に住みたい	歩いて10分くらいの ところに住みたい	遠くに離れ て住みたい
1992年	全体		7.4	13.3	50.0	29.3
	男子		9.5	14.7	41.4	34.4
	女子		4.9	11.4	60.8	22.9
2003年	全体		2.4	7.4	51.6	38.6
	男子		2.6	8.5	43.3	45.6
	女子		2.2	6.6	58.1	33.1

■表4-17 自分の老後、子どもとの関係×性

			(%)			
			同じ家に 住みたい	となりの家 に住みたい	歩いて10分くらいの ところに住みたい	遠くに離れ て住みたい
1992年	全体		10.4	19.6	50.4	19.6
	男子		13.7	20.5	42.3	23.5
	女子		6.3	18.5	60.4	14.8
2003年	全体		5.2	17.6	52.1	25.1
	男子		7.3	20.1	47.0	25.5
	女子		3.6	15.6	56.0	24.7

まとめ

深谷 昌志

高校生が変わってきたといわれる。そこで、1980年調査と1992年調査との対比の中で、高校生の意識の変化を明らかにしようとしたのが、本調査の目的である。20年間の間に、高校生が変わったのはたしかであろうが、どういう側面が変化したのであろうか。

＊

冒頭の「トピック」でふれたように、今回の変化を要約すると、以下のような7項目となる。

1. 高校の雰囲気はよいが、進学意欲は薄れる

この20年間で、①学校の雰囲気がよくなり、②熱心に指導してくれる先生が増えた。しかし、③大学進学に意欲をもやす生徒が減少気味という変化がみられる。

2. 大学の伝統や名声より、就職状況のよさを進学の基準にしたい

高校生たちの中で、「伝統のある大学」や「名声のある大学」というより、「就職状況がよさそう」を大学進学に基準にする傾向が強まっている。大学進学にあたり、ブランド名でなく、就職可能性という実利的な理由が重視されている。

3. 自分らしさを進路選択の基準に考えたい

「志望学部のない大学より、希望する学科のある専修学校へ進みたい」という気持ちが強まっている。進学にあたり自分の気持ちを基準にしたいという傾向が目につく。

4. 将来の仕事を選択する際、自分の暮らしを大事にしたい

「新しい技術をおぼえ、絶えず勉強し、社会的に尊敬される仕事」と「のんびりできるが、社会的にふつうくらいの尊敬しかしてもらえない仕事」との中では、のんびり派志向が1980年の36.4%から2003年の54.0%へと増加している。「責任があり、日曜日も休めない」仕事より、「きちんと休める会社を望む」意識も強まっている。仕

事の面で、私的な生活を優先したいという意識が強い。

5. 専業主婦のいる家庭から共働きの家庭へ

1980年の場合、専業主婦のいる暮らしを望む者は、男子の83.2%、女子の54.5%だった。しかし、2003年調査では、専業主婦を望む割合は、男子の45.5%、女子の25.3%にとどまる。20年の間に、高校生の抱く家庭像が、「専業主婦のいる家庭から共働きの家庭へ」と変化している。

6. 「夫がリードする」から「頼りあう」かたちへ

「夫がしっかりリードする」家庭を望む者は、1980年の33.6%（全体）から1992年の16.6%、そして2003年の8.2%へと減少している。それに対し、「互いに頼りあう」かたちを望む者は51.2%、65.0%、72.9%へと増加している。

このように高校生たちの抱く家庭の姿は「専業主婦の妻がいて、夫がしっかりリードするかたち」から「夫婦が共に働き、互いに頼りあって暮らすかたち」へ変化している。

7. 「家事は妻」から「夫婦で分担」への変化

1980年では、「洗濯物を干す」のは妻の役割が91.3%を占めたが、1992年の74.6%を経て、2003年には50.2%へ41.1ポイントも減少している。1980年代には、家事を妻が担うのがふつうだった。しかし、2003年になると、「妻に委ねる」割合は6割以下にとどまる。

＊

この20年間の高校生の変化は、進学にあたり、自分を生かせる学部を選びたい、就職では、私生活を優先させたいという。また、将来の家庭作りについて、互いの気持ちを尊重してしあわせな家庭を作りたいという傾向が目につく。このように、高校生の間に「ミーゾム」というか、「自分の気持ちを優先させる」態度が強まっている。

高校生が面倒な社会的な制約から解放され、「自分らしく生きたい」という気持ちは理解でき

る。昔の若者も、そう願っていたのであろうが、進学や就職の厳しさの中で、夢は夢として、現実的に生きようとする。

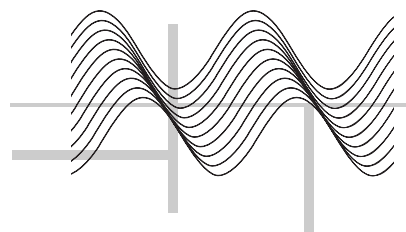
しかし、現在は、少子化を背景として、進学の厳しさは緩和され、高望みをしなければ入学が容易な事態を迎えつつある。また、大企業の倒産やリストラなどを目前にすると、高校生が企業優先の生き方に疑問が生まれるのも当然であろう。それだけに、自分に忠実に生きたいという高校生の心情は理解できる。

その反面、「親に甘えているのに、自分らしくもないものだ。身勝手すぎる」というおとなたちの声が聞こえてくる思いがする。

そこで、高校生の求める「自分らしさ」が、「個

性的」を意味するのか、それとも、単なる「身勝手な甘え」にすぎないのかが問題になる。考えてみると、個性化か甘えかは、進学や就職という未来の話ではない。

高校生としての生活の中で、自分らしい生き方を求めて、ボランティア活動やアルバイトをする。あるいは、部活動に熱中する。もちろん、予備校通いでもよい。自分として目的意識を持ち、毎日を過ごしているなら、個性が育つ。それに対し、なんとなく寝る、ぼんやりとゲームをする、多くの時間をかけメールを送る生活では、自分らしいというより、楽な暮らしに身をおくだけにすぎない。高校生一人ひとりの毎日の過ごし方が問われているように思われてならない。



1 学校名などをお書きください。

1. 学校名…… () 高等学校
2. 学 年…… (1. 1年 2. 2年 3. 3年) (○をつけてください)
3. 性 別…… (1. 男子 2. 女子) (○をつけてください)

4. 部活動に入っていますか。

1. 入部したことはない
2. 以前参加したが、今は入っていない
3. 形だけ入籍しているが、あまり活動していない
4. 今も在籍し、積極的に活動している



その部活動は…… 1. 文化部
2. 運動部
3. その他 ()

1. まず、高校生活についておたずねします。

2 あなたは現在の高校について、どんな気持ちをもっていますか。

1. 学校全体の雰囲気がいよい…… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
とても まあ そうでもない ぜんぜん
そうでもない そうでもない
2. まじめに勉強をする生徒が多い…… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
3. 熱心に指導してくれる先生が多い…… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
4. 他の高校と比べ学校全体が
のびのびしている…… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
5. 大学進学に意欲をもっている生徒が
多い…… 1 — 2 — 3 — 4 — 5

アンケートのお願い

このアンケートは、高校生の生活や将来のことについて
おたずねするためにつくったものです。
あなたの大切な時間をいただいて申しわけありませんが、
ご協力くださいますようお願い申し上げます。
(お名前はいりませんので、ありのままをお答えください)

高校教育研究会 深谷 昌 志
東京成徳短期大学教授 武内 清
上智大学教授 望月 重 信
明治学院大学教授

《回答のしかた》特にことわりのない場合は、あてはまる数字に1つだけ○をつけてください。

資料1 ◆調査票見本

3 あなたの現在の成績は、学校全体の中でどのくらいに位置していますか。

	トップの方	上位から 10%くらい	上位から 30%くらい	真ん中	中の下 くらい	うしろの方
1. 英語	1	2	3	4	5	6
2. 数学	1	2	3	4	5	6
3. 国語	1	2	3	4	5	6

4 高校生活を以下のように分けた場合、それぞれの生活にどの程度満足していますか。

	とても満足 している	かなり満足 している	やや満足 している	やや 不満足	かなり 不満足	とても 不満足
1. 現在の学業成績	1	2	3	4	5	6
2. 友達との関係	1	2	3	4	5	6
3. 先生との関係	1	2	3	4	5	6
4. 放課後の余暇の生活	1	2	3	4	5	6

5 あなたは、今しあわせですか。

	とても しあわせ	かなり しあわせ	やや しあわせ	ふつう くらい	やや ふしあわせ	かなり ふしあわせ	とても ふしあわせ
1	1	2	3	4	5	6	7

II. 次に、高校卒業後についておたずねします。

6 高校を卒業した後の進路についておたずねします。現在のところ、どんな進路を考えていますか。

- 就職する
- 家業などを手伝う
- 専修学校や専門学校へ通う
- 短大へ入学する
- 4年制大学(私立)へ入学する
- 4年制大学(国立)へ入学する
- その他()
- まだ決めていない

7 志望大学を決めるとき、あなたは次のようなことをどのくらい大事に考えますか。

	とても 大事に考える	まあ 大事に考える	まあ あまり大事に 考えない	まったく 大事に考えない
1. その大学が家から通える範囲にある	1	2	3	4
2. 授業料が安い	1	2	3	4
3. 世間的に名前が知られている	1	2	3	4
4. 就職状況がよさそう	1	2	3	4
5. 優秀な教授陣がそろっている	1	2	3	4
6. 入学するのが難しい	1	2	3	4
7. 受験科目が少ない	1	2	3	4
8. 伝統のある大学である	1	2	3	4

8 次の質問は、「もし、あなたがN君だったら」という質問です。次にあげたようなとき、あなたならどうしますか。①～⑧それぞれについて、ほく(わたし)ならこうする、あるいはこうするだろうと思う方に○をつけてください。

① すべり止めのA大学にしか合格しなかったA君。もしあなたがA君だったら。

1. 浪人して来年に期する
2. A大学に入る

② 東京の有名私立大学と地元の国立大学にめでたく合格したB君。もしあなたがB君だったら。

1. 東京の有名私立大学に進学する
2. 地元の国立大学に進学する

③ 電子工学志望のC君。合格したのはO×電子工学院(専修学校)と電子工学科のないC大の工学部。もしあなたがC君だったら。

1. O×電子工学院に進学する
2. C大学に進学する

- ④ 地方在住のDさん（女子）。行きたい学部は地元の大学にありません。でも両親は、地元の大学をすすめています。もしあなたがDさんだったら。

1. 地元の大学に行く
2. 志望学科のある大学に行く

- ⑤ 東京の大学へ行き、下宿生活をしてみたいE君。でも、両親は仕送りはできないと言っています。もしあなたがE君だったら。

1. アルバイトをしてでも東京の大学に進む
2. 両親にしたがって地元の大学に進む

- ⑥ 東京の大学に進みたいF君には、3年間交際の続いているW子さんがいます。でも、W子さんは親元を離れることができません。もしあなたがF君だったら。

1. 東京の大学に進む
2. 地元の大学に進む

- ⑦ 文学部志望のG君。しかし両親は将来のことを考えて、法学部が経済学部に進むようにすすめます。もしあなたがG君だったら。

1. 文学部に進む
2. 法学部あるいは経済学部に進む

- ⑧ 3年生のH君のクラスで、今年度の日曜日にハイキングに行くことが決まりました。でもその日はH君の行っている進学塾の模試の日。もしあなたがH君だったら。

1. ハイキングに行く
2. 模試試験に行く

Ⅲ. 将来の職業についておたずねします。

- ⑨ 次のような会社があったら、あなたは入社したいと思いますか。

- | | ぜひ入社したい | どちらでも入社したい | どちらでも入社したくない | あまり入社したくない |
|-----------------------------------|---------|------------|--------------|------------|
| 1. 仕事は大変だが給料のとてもよい会社…… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 仕事はつまらないが非常に安定した会社…… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 名前は通っていないが、実力次第で大きな仕事のできる会社…… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 将来の出世は難しいかもしれないが世間に名の通った一流企業…… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 学歴にとらわれず実力第一主義の経営方針をとる会社…… | 1 | 2 | 3 | 4 |

- ⑩ 次に1と2という反対の生き方が書いてあります。大きくなったら、あなたはどちらの生き方をしたいと思いますか。どちらかに○をつけてください。

- A
1. 朝早くから夜おそくまで働かなければならないが、ふつうの3倍くらいお金のもうかる仕事をする
 2. いつもきちんと6時頃までに帰ってこられるが、ふつうくらいしかお金のもうからない仕事をする

- B
1. 新しい技術をおぼえるため、いつも勉強しなければならぬが、社会的にとっても尊敬される
 2. その日その日のをのんびりと過ごせるけれど、社会的にはふつうくらいの尊敬しかしてもらえない

- C
1. 会社の中でたくさんさんの部下をもち、責任のある仕事をしているが、日曜日などほとんど休めない
 2. 日曜日などきちんと休めるかわり、会社の中ではふつうくらいの責任しかもたない

- ⑪ 一流大学を卒業したという値打ちは、これからの世の中で、どう変わっていくと思いますか。

1. これからますます値打ちが上がる
2. 今までと変わらない
3. これからやや下がると思う
4. これからぐんと下がると思う

12 次にくいつかの職種が書いてあります。その中であなたがなりたいものがあったら○をつけてください。○はいくつつけても、1つもつけなくてもかまいません。

1. 裁判官や弁護士
2. 一流レストランのシェフ
3. プロスポーツの選手
4. J-POPのアーティスト
5. 大学教授
6. 喫茶店のマスター (主人)
7. 地方公務員
8. 新聞記者
9. 一流企業の社員
10. 胸のよい大工
11. アナウンサー
12. マンガ家
13. ビルなどを作る設計士
14. 小学校の先生
15. 医師

IV. 今度は異性とのつきあいや将来の結婚についておたずねします。

13 あなたには、好きな人 (異性) がいますか。

1. 今のところ関心のある相手がいらない
2. 関心のある相手はいるが、特にその人と個人的につきあいたいほどではない
3. 関心のある相手がついて、個人的につきあいたいのが、片思いかそれに近い状態だ
4. 両思いの相手がついて、つきあっている

14 あなたは、今まで (わりと) 好意をもっている相手 (異性) をさそって、またはさそわれて2人だけで、次のようなことをしたことがありますか。

- | | 何度も
ある | 4～5回
ある | 1～2回
ある | 1度も
ない |
|-----------------------|-----------|------------|------------|-----------|
| 1. ファーストフード店でおしゃべりをする | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 誕生日にプレゼントをする | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 手をつないだり、腕を組んだりして歩く | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. お互いの持ち物を交換する | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 夜中に長電話をする | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 2人でカラオケボックスへ行く | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. 将来の生活設計を一生懸命に話し合う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 泊まりがけで旅行に出かける | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. キスをする | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. ラブホテルへ行く | 1 | 2 | 3 | 4 |

15 結婚するとしたら、相手の年齢はどれくらいがよいと思いますか。

- | ずっと
若下 | 3～5歳
若下 | 1～2歳
若下 | 同年 | 1～2歳
年上 | 3～5歳
年上 | ずっと
年上 |
|-----------|------------|------------|----|------------|------------|-----------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |

16 結婚をしたら、妻はどんな生活をしたらよいと思いますか。

- | 結婚をしたら
家庭に入る | 子どもが生まれる
まで働く | 子育てを終えたら
また働く | ずっと仕事を
持ち続ける |
|-----------------|------------------|------------------|-----------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |

17 あなたは結婚したら、どのような夫婦になりたいと思いますか。

1. 夫婦姉妹型で、夫がしっかりリードしている夫婦
2. 夫婦ともに互いに頼りあっている夫婦
3. どちらかというとき妻の方がしっかりリードしている夫婦
4. それぞれが独立した生き方を尊重している夫婦

18 あなたは、次のような家事の分担を授業員の家庭でどうしたらよいと思っていますか。

- | | 妻が
全額する | 妻がほとんど
するが夫も
たがに手伝う | 妻がいない
するが夫も
同じくらい
かなり手伝う | 夫が半分
するが夫も
以上する | 夫が
ほとんどする |
|--------------|------------|---------------------------|-----------------------------------|-----------------------|--------------|
| 1. 朝食作り | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 洗濯物を干す | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. 夕食のための買い物 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. 夕食作り | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. 夕食後の茶碗洗い | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6. 食後にお茶を入れる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7. お風呂の掃除 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

19 結婚して、子どもが幼稚園に入るくらいに、相手とどうしても性格が合わないと思うようになったとします。そんなとき、あなたは どうしますか。

- | ぜったい
離婚しない | できれば
離婚しない | たぶん
離婚する | ぜったい
離婚する |
|---------------|---------------|-------------|--------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |

20 では、子どもがいなかったらどう思いますか。

ぜったい できれば たぶん ぜったい
離婚しない 離婚しない 離婚する
1 -----2-----3-----4

21 あなたは将来結婚をしたら、どんな暮らし方をしたいと思っていますか。あなたの気持ちに近いところに1つOをつけてください。

① 住まい

ぜったい ぜったい ぜったい
A A A B B B
A. せまくても市街地にあるマンション 1-----2-----3-----4-----B.

② 親との関係

ぜったい ぜったい ぜったい
A A A B B B
A. 若いうちは親とはぜつ 1-----2-----3-----4-----B. 親と一緒にだと便利なこどももあるので一緒にいたい別々に暮らしたい 1-----2-----3-----4-----B.

③ 子どもを産む時期

ぜったい ぜったい ぜったい
A A A B B B
A. なるべく早く産んで若 1-----2-----3-----4-----B. 夫婦だけの生活を築きみたいのでゆつくりつくりたい 1-----2-----3-----4-----B.

④ 結婚した後の2人の姓

ぜったい ぜったい ぜったい
A A A B B B
A. 男性の姓を名ののが 1-----2-----3-----4-----B. 別にどちらの姓を名の自然だ 1-----2-----3-----4-----B.

⑤ 結婚した後の異性とのつきあい

ぜったい ぜったい ぜったい
A A A B B B
A. 異性間での友だちつき 1-----2-----3-----4-----B. 異性間でも、友達は成り立つと思うので無理はない程度につきあいたい 1-----2-----3-----4-----B.

⑥ 夫の屋の食事

ぜったい ぜったい ぜったい
A A A B B B
A. 好物を入れたお弁当を 1-----2-----3-----4-----B. 好きなものを外食してほしい (外食の方がよい) 1-----2-----3-----4-----B.

⑦ 妻が38度くらいの高を出したら

ぜったい ぜったい ぜったい
A A A B B B
A. 夫は会社を休み、家にいて世話をしてくれる (夫が会社へ行くのもしかない) 1-----2-----3-----4-----B. 近所の人に世話を頼み夫は会社へ行く (夫が会社へ行くのもしかない) 1-----2-----3-----4-----B.

⑧ 日曜日、会社の上司から仕事を頼まれたら

ぜったい ぜったい ぜったい
A A A B B B
A. 日曜日は原則として、仕事をしないと言って断る (断ってもらう) 1-----2-----3-----4-----B. 上司の頼みだから、仕事に出かける (夫が出かけるのもしかない) 1-----2-----3-----4-----B.

⑨ 子どものしつけ

ぜったい ぜったい ぜったい
A A A B B B
A. 夫は仕事に専念し、子どものしつけはだいたいが妻が受け持つ 1-----2-----3-----4-----B. 子どものしつけは夫と妻とが同じように受け持つ 1-----2-----3-----4-----B.

22 あなたは、結婚してから子どもを何人ほしいですか。

いらない 1人 2人 3人 4人 5人以上
1-----2-----3-----4-----5-----6

23 あなたは結婚するとき、あなたのお父さんやお母さんと一緒に住みたいですか。それとも別々に住みたいですか。

1. 同じ家に住みたい 2. となりの家に住みたい
3. 歩いて10分くらいいのに住みたい 4. 遠くにはなれて住みたい

24 あなたは、あなたが年をとって、おじいさん、おばあさんになったとき、(もう結婚している) あなたの子どもたちと一緒に住みたいですか。それとも別々に住みたいですか。

1. 同じ家に住みたい 2. となりの家に住みたい
3. 歩いて10分くらいいのに住みたい 4. 遠くにはなれて住みたい

～これで終わりです。長い間どうもありがとうございました。～

資料2 ◆学年・性別集計表

単位：サンプル数・学年・性別以外はパーセント

質問項目			全体	性 別		学 年 別			
				男子	女子	1 年	2 年	3 年	
サンプル数			1,000	441	559	419	295	286	
1	学 年	1. 1 年	419	190	229				
		2. 2 年	295	114	181				
		3. 3 年	286	137	149				
	性 別	1. 男子	441			190	114	137	
		2. 女子	559			229	181	149	
	部 活 動	参 加 状 況	1. 入部したことはない	14.0	12.2	15.4	11.7	18.0	13.3
			2. 以前参加したが、今は入っていない	18.2	18.4	18.1	6.7	11.5	42.0
			3. 在籍しているが、あまり活動していない	5.6	5.4	5.7	5.7	7.1	3.8
			4. 今も在籍し、積極的に活動している	62.2	63.9	60.8	75.9	63.4	40.9
		種 類	1. 文化部	28.5	12.4	41.6	25.0	30.8	34.8
			2. 運動部	70.8	87.2	57.5	74.7	68.7	63.5
			3. その他	0.7	0.4	0.9	0.3	0.5	1.7
2	現在の高校にどんな気持ちをもっているか	学校全体の雰囲気がよい	1. とてもそう思う	16.8	14.3	18.8	19.6	15.6	14.0
			2. まあそう思う	46.6	45.8	47.2	48.9	47.5	42.3
			3. 半分半分	25.7	26.5	25.0	23.9	24.1	30.1
			4. あまりそう思わない	8.3	9.5	7.3	5.7	9.5	10.8
			5. ぜんぜんそう思わない	2.6	3.9	1.6	1.9	3.4	2.8
		まじめに勉強をする生徒が多い	1. とてもそう思う	21.7	21.3	22.0	27.2	15.6	19.9
			2. まあそう思う	39.2	36.5	41.3	36.0	49.2	33.6
			3. 半分半分	29.9	30.2	29.7	28.9	29.8	31.5
			4. あまりそう思わない	7.9	9.8	6.4	6.7	5.1	12.6
			5. ぜんぜんそう思わない	1.3	2.3	0.5	1.2	0.3	2.4
		熱心に指導してくれる先生が多い	1. とてもそう思う	20.0	19.5	20.4	21.2	16.9	21.3
			2. まあそう思う	41.4	37.4	44.5	41.5	42.7	39.9
			3. 半分半分	28.9	29.7	28.3	26.3	32.9	28.7
			4. あまりそう思わない	6.7	7.9	5.7	7.9	5.4	6.3
			5. ぜんぜんそう思わない	3.0	5.4	1.1	3.1	2.0	3.8
		他の高校と比べ学校全体がのびのびしている	1. とてもそう思う	15.8	14.1	17.2	16.3	15.3	15.7
			2. まあそう思う	28.4	29.8	27.4	29.9	26.8	28.0
			3. 半分半分	28.6	27.3	29.7	25.8	30.2	31.1
			4. あまりそう思わない	17.1	17.3	17.0	19.9	16.9	13.3
			5. ぜんぜんそう思わない	10.0	11.6	8.8	8.1	10.8	11.9
		大学進学に意欲をもやしている生徒が多い	1. とてもそう思う	31.3	31.1	31.5	31.3	28.8	33.9
			2. まあそう思う	37.8	37.3	38.3	38.3	40.0	35.0
			3. 半分半分	21.6	21.8	21.5	21.8	23.4	19.6
			4. あまりそう思わない	7.7	7.7	7.7	6.9	7.5	9.1
			5. ぜんぜんそう思わない	1.5	2.0	1.1	1.7	0.3	2.4
3	成績（学校全体の中で）	英 語	1. トップの方	4.7	4.6	4.9	5.0	4.8	4.2
			2. 上位から10%くらい	9.9	8.2	11.2	8.7	11.9	9.5
			3. 上位から30%くらい	18.7	16.6	20.4	17.5	20.5	18.7
			4. まん中くらい	28.0	23.9	31.2	26.7	27.3	30.6
			5. 中の下くらい	19.5	19.6	19.5	20.4	18.4	19.4
			6. うしろの方	19.1	27.1	12.8	21.6	17.1	17.6
		数 学	1. トップの方	4.0	6.2	2.4	4.1	3.8	4.2
			2. 上位から10%くらい	11.4	16.1	7.8	12.8	10.3	10.6
			3. 上位から30%くらい	18.9	18.2	19.5	17.9	20.7	18.7
			4. まん中くらい	27.8	24.6	30.4	30.0	30.0	22.5
			5. 中の下くらい	17.6	14.9	19.7	15.5	17.2	21.1
			6. うしろの方	20.1	20.0	20.3	19.8	17.9	22.9

資料2 ◆学年・性別集計表

質問項目				全体	性 別		学 年 別		
					男子	女子	1 年	2 年	3 年
3	成績(学校全体の中で)	国語	1. トップの方	3.7	3.9	3.6	3.4	3.1	4.9
			2. 上位から10%くらい	7.5	5.1	9.4	6.0	9.3	7.7
			3. 上位から30%くらい	19.9	16.3	22.8	15.7	28.3	17.6
			4. まん中くらい	34.6	30.8	37.6	35.0	32.4	36.3
			5. 中の下くらい	18.5	20.7	16.8	21.0	13.8	19.7
			6. うしろの方	15.7	23.2	9.8	18.8	13.1	13.7
4	高校生活に満足しているか	現在の学業成績	1. とても満足している	1.4	1.6	1.3	1.7	1.7	0.7
			2. かなり満足している	3.1	3.0	3.2	3.3	4.4	1.4
			3. やや満足している	20.5	18.5	22.2	21.3	22.7	17.2
			4. やや不満足	33.1	28.2	36.9	32.8	33.2	33.3
			5. かなり不満足	24.6	24.8	24.5	22.7	22.4	29.8
			6. とても不満足	17.2	23.9	12.0	18.2	15.6	17.5
		友だちとの関係	1. とても満足している	17.6	13.2	21.1	18.9	18.3	15.1
			2. かなり満足している	28.9	28.2	29.4	29.1	30.2	27.1
			3. やや満足している	38.1	40.9	35.8	34.4	39.0	42.6
			4. やや不満足	11.3	12.5	10.4	12.2	9.5	12.0
			5. かなり不満足	2.8	3.4	2.3	4.1	1.7	2.1
			6. とても不満足	1.3	1.8	0.9	1.4	1.4	1.1
		先生との関係	1. とても満足している	5.1	4.1	5.9	6.2	4.8	3.9
			2. かなり満足している	12.0	10.7	13.1	13.1	11.6	11.0
			3. やや満足している	52.4	51.0	53.5	54.2	48.3	54.1
			4. やや不満足	22.3	22.8	21.9	19.3	27.2	21.6
			5. かなり不満足	4.8	6.6	3.4	4.3	4.1	6.4
			6. とても不満足	3.3	4.8	2.2	2.9	4.1	3.2
		放課後の余暇の生活	1. とても満足している	11.9	13.3	10.8	16.5	8.5	8.5
			2. かなり満足している	16.3	16.5	16.1	18.9	16.6	12.0
			3. やや満足している	32.1	29.5	34.1	27.6	35.3	35.3
			4. やや不満足	25.7	24.9	26.3	20.6	26.8	32.2
			5. かなり不満足	8.2	8.7	7.9	9.8	7.1	7.1
			6. とても不満足	5.8	7.1	4.8	6.5	5.8	4.9
5	今しあわせか	1. とてもしあわせ	9.7	8.9	10.2	10.0	9.2	9.5	
		2. かなりしあわせ	14.2	11.2	16.5	16.7	15.4	9.2	
		3. ややしあわせ	24.4	25.9	23.3	21.8	25.9	26.9	
		4. ふつうくらい	33.2	32.0	34.1	32.8	31.7	35.3	
		5. ややふしあわせ	11.9	13.0	11.0	10.0	12.3	14.1	
		6. かなりふしあわせ	3.7	5.3	2.5	4.5	3.4	2.8	
		7. とてもふしあわせ	2.9	3.7	2.3	4.1	2.0	2.1	
6	高校卒業後の進路	1. 就職する	1.8	3.0	0.9	1.7	2.4	1.4	
		2. 家事などを手伝う	0.1	0.2	0.0	0.0	0.3	0.0	
		3. 専修学校や専門学校へ通う	4.4	3.4	5.2	5.5	2.7	4.6	
		4. 短大へ入学する	2.7	0.0	4.8	1.4	2.4	4.9	
		5. 4年制大学（私立）へ入学する	12.0	10.3	13.4	13.7	8.5	13.4	
		6. 4年制大学（国立）へ入学する	69.4	74.0	65.8	62.1	76.9	72.2	
		7. その他	1.1	0.9	1.3	1.7	0.0	1.4	
		8. まだ決めていない	8.4	8.2	8.6	13.9	6.8	2.1	

資料2 ◆学年・性別集計表

質問項目				全体	性 別		学 年 別		
					男子	女子	1 年	2 年	3 年
7	志望大学を決めるときに、どのくらい大事に考えるか	その大学が家から通える範囲にある	1. とても大事に考える	12.7	8.5	16.0	10.6	16.3	12.0
			2. まあ大事に考える	25.9	22.8	28.4	30.4	24.8	20.4
			3. あまり大事に考えない	31.7	32.6	30.9	35.5	30.3	27.5
			4. まったく大事に考えない	29.7	36.1	24.8	23.4	28.6	40.1
		授業料が安い	1. とても大事に考える	32.8	31.7	33.7	33.2	33.9	31.2
			2. まあ大事に考える	48.5	47.1	49.5	47.2	46.1	52.8
			3. あまり大事に考えない	14.7	15.9	13.9	16.2	15.6	11.7
			4. まったく大事に考えない	3.9	5.3	2.9	3.4	4.4	4.3
		世間的に名前が知られている	1. とても大事に考える	8.9	11.5	6.8	11.6	6.1	7.7
			2. まあ大事に考える	39.2	39.4	39.0	39.1	39.3	39.1
			3. あまり大事に考えない	39.1	37.6	40.2	40.6	39.3	36.6
			4. まったく大事に考えない	12.9	11.5	14.0	8.7	15.3	16.5
		就職状況がよさそうだと感じる	1. とても大事に考える	35.3	33.6	36.7	39.5	33.6	31.1
			2. まあ大事に考える	49.0	46.2	51.3	47.5	52.5	47.7
			3. あまり大事に考えない	13.0	16.3	10.4	11.6	11.5	16.6
			4. まったく大事に考えない	2.6	3.9	1.6	1.5	2.4	4.6
		優秀な教授陣がそろっている	1. とても大事に考える	14.4	15.6	13.4	17.4	13.3	11.0
			2. まあ大事に考える	38.2	32.9	42.4	39.2	37.4	37.6
			3. あまり大事に考えない	37.7	40.7	35.4	36.6	38.1	39.0
			4. まったく大事に考えない	9.7	10.8	8.8	6.8	11.2	12.4
	入学するのが難しい	1. とても大事に考える	22.8	21.1	24.0	23.1	21.8	23.3	
		2. まあ大事に考える	49.0	47.6	50.2	48.5	48.6	50.2	
		3. あまり大事に考えない	22.8	23.9	21.8	23.3	24.8	19.8	
		4. まったく大事に考えない	5.5	7.4	4.0	5.1	4.8	6.7	
	受験科目が少ない	1. とても大事に考える	8.5	9.2	7.9	9.5	8.5	7.1	
		2. まあ大事に考える	31.8	28.7	34.3	34.7	32.2	27.2	
		3. あまり大事に考えない	44.6	43.1	45.8	45.9	44.7	42.8	
		4. まったく大事に考えない	15.1	19.0	11.9	10.0	14.6	23.0	
	伝統のある大学である	1. とても大事に考える	5.7	8.3	3.8	5.3	5.4	6.7	
		2. まあ大事に考える	24.8	22.7	26.4	26.1	23.4	24.4	
		3. あまり大事に考えない	45.9	43.6	47.7	48.3	47.1	41.0	
		4. まったく大事に考えない	23.6	25.5	22.1	20.3	24.1	27.9	
8	あなたならどうするか	合格止めにすべし	1. 浪人して来年に期する	30.2	37.4	24.6	32.7	28.1	28.9
			2. A大学に入る	69.8	62.6	75.4	67.3	71.9	71.1
		立元立有東京の大学国地名私	1. 東京の有名私立大学に進学する	28.1	30.4	26.3	33.3	23.4	25.6
			2. 地元の国立大学に進学する	71.9	69.6	73.7	66.7	76.6	74.4
		学校専修と大学	1. ○×電子工学院に進学する（専修学校）	77.1	74.4	79.3	81.4	80.6	67.4
			2. C大学に進学する	22.9	25.6	20.7	18.6	19.4	32.6
		無部の志望の有学	1. 地元の大学に行く	10.4	9.6	10.9	8.2	14.6	9.1
			2. 志望学科のある大学に行く	89.6	90.4	89.1	91.8	85.4	90.9
		生活下宿	1. アルバイトをしてでも東京の大学に進む	67.8	71.2	65.2	73.3	61.7	66.3
			2. 両親にしたがって地元の大学に進む	32.2	28.8	34.8	26.7	38.3	33.7
		元手は交際相手	1. 東京の大学に進む	83.8	79.6	87.1	81.0	85.8	86.0
			2. 地元の大学に進む	16.2	20.4	12.9	19.0	14.2	14.0
異なる学部	1. 文学部に進む	79.2	73.2	83.8	77.1	80.7	80.7		
	2. 法学部あるいは経済学部に進む	20.8	26.8	16.2	22.9	19.3	19.3		
	とのクラス模試	1. ハイキングに行く	39.9	46.0	35.1	39.5	38.0	42.5	
		2. 模擬試験に行く	60.1	54.0	64.9	60.5	62.0	57.5	

資料2 ◆学年・性別集計表

質問項目				全体	性 別		学 年 別		
					男子	女子	1 年	2 年	3 年
9	次のような会社に入社したいか	よい会社 給料のとても	1. ぜひ入社したい	27.0	31.0	23.8	27.4	26.4	26.8
			2. できたら入社したい	52.2	48.3	55.3	50.1	54.2	53.2
			3. どちらでもない	17.4	15.9	18.6	19.1	16.3	16.2
			4. あまり入社したくない	2.4	3.0	2.0	2.4	2.7	2.1
			5. ぜんぜん入社したくない	1.0	1.8	0.4	1.0	0.3	1.8
		した会社 非常に安定	1. ぜひ入社したい	4.9	5.7	4.3	6.2	4.1	3.9
			2. できたら入社したい	27.2	28.0	26.5	28.4	27.8	24.6
			3. どちらでもない	35.1	31.2	38.1	34.8	36.6	33.8
			4. あまり入社したくない	23.5	23.7	23.4	22.4	22.7	26.1
			5. ぜんぜん入社したくない	9.3	11.4	7.7	8.1	8.8	11.6
		大きな仕事の できる会社	1. ぜひ入社したい	22.5	26.4	19.5	17.9	27.1	24.6
			2. できたら入社したい	47.5	45.6	49.0	48.7	44.4	48.9
			3. どちらでもない	26.4	23.7	28.4	29.8	24.1	23.6
			4. あまり入社したくない	2.6	2.7	2.5	2.6	3.7	1.4
			5. ぜんぜん入社したくない	1.0	1.6	0.5	1.0	0.7	1.4
		一流企業	1. ぜひ入社したい	3.4	3.6	3.2	3.3	3.1	3.9
			2. できたら入社したい	19.5	19.6	19.5	16.9	20.0	22.9
			3. どちらでもない	46.1	43.5	48.1	50.1	41.4	45.1
			4. あまり入社したくない	23.9	23.9	24.0	22.9	28.1	21.1
			5. ぜんぜん入社したくない	7.0	9.3	5.2	6.7	7.5	7.0
	実力第一主義 の会社	1. ぜひ入社したい	25.4	28.5	22.9	23.2	28.8	25.1	
		2. できたら入社したい	41.0	38.3	43.2	42.7	36.6	43.1	
		3. どちらでもない	28.9	27.1	30.3	27.9	30.2	29.0	
		4. あまり入社したくない	3.9	4.6	3.4	5.0	4.1	2.1	
		5. ぜんぜん入社したくない	0.8	1.6	0.2	1.2	0.3	0.7	
10	生き方	A	1. 長時間働くがお金のもうかる仕事	31.3	34.1	29.2	34.0	27.1	31.8
			2. 6時頃に帰れるがもうからない仕事	68.7	65.9	70.8	66.0	72.9	68.2
		B	1. 常に勉強が必要だが社会的に尊敬される	46.0	51.1	42.0	42.6	44.4	52.8
			2. のんびりできるが社会的尊敬はふつう	54.0	48.9	58.0	57.4	55.6	47.2
		C	1. 責任ある仕事だが休日など休めない	19.4	20.6	18.5	15.1	18.6	26.6
			2. 休日など休めるが責任はふつうくらい	80.6	79.4	81.5	84.9	81.4	73.4
11	打ち 業という価値	一流大学卒	1. これからますます値打ちが上がる	16.2	17.9	14.9	22.9	12.5	10.2
			2. 今までと変わらない	35.0	33.5	36.2	34.0	38.3	33.1
			3. これからやや下がると思う	38.4	36.9	39.6	34.0	38.0	45.4
			4. これからぐんと下がると思う	10.4	11.7	9.3	9.2	11.2	11.3
12	なり たい職種 (複数回答)		1. 裁判官や弁護士	14.1	16.1	12.5	15.8	12.5	13.3
			2. 一流レストランのシェフ	9.7	11.1	8.6	8.8	9.8	10.8
			3. プロスポーツの選手	11.8	21.5	4.1	14.3	9.2	10.8
			4. J-POPのアーティスト	10.3	9.8	10.7	10.5	11.5	8.7
			5. 大学教授	8.7	12.7	5.5	8.1	8.5	9.8
			6. 喫茶店のマスター（主人）	12.0	11.8	12.2	9.1	14.9	13.3
			7. 地方公務員	29.1	34.0	25.2	28.6	29.5	29.4
			8. 新聞記者	8.4	7.3	9.3	5.7	11.9	8.7
			9. 一流企業の社員	15.0	18.6	12.2	13.8	11.5	20.3
			10. 腕のよい大工	6.5	11.8	2.3	6.4	5.8	7.3
			11. アナウンサー	11.7	6.6	15.7	12.9	11.5	10.1
			12. マンガ家	5.5	4.5	6.3	5.0	5.8	5.9
			13. ビルなどを作る設計士	10.4	14.7	7.0	9.1	9.2	13.6
			14. 小学校の先生	20.4	15.6	24.2	20.8	23.7	16.4
			15. 医師	15.3	17.9	13.2	21.0	9.5	12.9

資料2 ◆学年・性別集計表

質問項目			全体	性 別		学 年 別			
				男子	女子	1 年	2 年	3 年	
13	好きな異性	1. 今のところいない	38.1	33.6	41.7	39.0	39.7	35.2	
		2. いるがつきあいたいほどではない	24.4	28.5	21.1	24.4	22.1	26.7	
		3. つきあいたい相手はいるが片思い	21.3	21.3	21.3	24.4	19.0	19.2	
		4. 両思いでつきあっている	16.2	16.7	15.8	12.2	19.3	18.9	
14	好意をもっている異性と2人だけでしたことがあるか	ファーストフード店でおしやべりをする	1. 何度もある	9.6	9.1	9.9	5.9	9.4	15.1
			2. 4～5回ある	6.2	5.6	6.6	5.2	7.0	6.8
			3. 1～2回ある	20.4	17.3	22.8	18.5	19.9	23.7
			4. 1度もない	63.8	67.9	60.6	70.4	63.8	54.3
		誕生日にプレゼントをする	1. 何度もある	5.9	5.9	5.9	4.9	5.6	7.6
			2. 4～5回ある	5.6	5.9	5.3	4.2	4.2	9.0
			3. 1～2回ある	31.5	27.2	35.0	29.9	30.6	35.0
			4. 1度もない	57.0	61.1	53.8	61.0	59.7	48.4
		手をつないだり、腕を組んだりして歩く	1. 何度もある	17.1	17.3	17.0	11.9	19.5	22.4
			2. 4～5回ある	5.6	5.2	5.9	4.7	4.9	7.6
			3. 1～2回ある	15.5	14.8	16.1	15.8	12.9	17.7
			4. 1度もない	61.8	62.8	61.0	67.6	62.7	52.3
		お互いの持ち物を交換する	1. 何度もある	6.7	7.3	6.3	6.2	6.3	7.9
			2. 4～5回ある	4.6	4.0	5.2	5.2	3.1	5.4
			3. 1～2回ある	20.0	19.0	20.8	18.3	18.8	23.8
			4. 1度もない	68.7	69.8	67.8	70.4	71.9	62.8
		夜中に長電話をする	1. 何度もある	15.4	14.3	16.4	12.1	13.9	22.0
			2. 4～5回ある	7.7	5.4	9.6	8.6	6.3	7.9
			3. 1～2回ある	14.2	14.3	14.2	12.8	14.9	15.5
			4. 1度もない	62.6	66.0	59.9	66.5	64.9	54.5
		カラオケボックスへ行く	1. 何度もある	3.9	4.4	3.5	1.5	4.9	6.5
			2. 4～5回ある	1.4	1.9	1.1	1.5	1.0	1.8
			3. 1～2回ある	6.7	6.3	7.0	4.4	5.6	11.2
			4. 1度もない	87.9	87.4	88.4	92.6	88.5	80.4
		将来の生活設計を一生懸命に話し合う	1. 何度もある	4.7	4.2	5.0	1.2	6.0	8.3
			2. 4～5回ある	4.1	3.8	4.4	3.0	2.8	7.2
			3. 1～2回ある	11.3	8.0	13.9	7.9	10.9	16.6
			4. 1度もない	79.9	84.0	76.7	87.9	80.4	67.9
		泊まりがけで旅行に出かける	1. 何度もある	0.7	1.4	0.2	0.2	1.0	1.1
			2. 4～5回ある	0.2	0.0	0.4	0.2	0.3	0.0
			3. 1～2回ある	2.0	2.6	1.5	0.7	1.7	4.0
			4. 1度もない	97.1	96.0	98.0	98.8	96.9	94.9
		キスをする	1. 何度もある	17.7	17.9	17.5	11.1	21.7	23.2
			2. 4～5回ある	3.1	2.8	3.3	3.0	2.8	3.6
			3. 1～2回ある	8.6	8.0	9.0	7.2	8.4	10.9
			4. 1度もない	70.6	71.2	70.1	78.7	67.1	62.3
		ラブホテルへ行く	1. 何度もある	1.3	1.9	0.9	0.7	1.4	2.2
			2. 4～5回ある	0.6	0.7	0.6	0.5	1.0	0.4
			3. 1～2回ある	2.5	1.4	3.3	1.7	2.4	3.6
			4. 1度もない	95.5	96.0	95.2	97.0	95.1	93.8
15	結婚相手の年齢はどれくらいがよいか	1. ずっと年下	0.3	0.7	0.0	0.0	0.7	0.4	
		2. 3～5歳年下	1.9	3.2	0.9	1.0	2.0	3.2	
		3. 1～2歳年下	12.1	24.8	2.2	11.9	7.8	16.8	
		4. 同年	44.2	58.3	33.2	47.9	42.3	40.7	
		5. 1～2歳年上	30.1	11.8	44.4	29.8	33.4	27.1	
		6. 3～5歳年上	9.0	0.9	15.3	7.3	10.9	9.6	
		7. ずっと年上	2.3	0.2	4.0	2.2	2.7	2.1	

資料2 ◆学年・性別集計表

質問項目			全体	性 別		学 年 別			
				男子	女子	1 年	2 年	3 年	
16	結婚後、妻がよいか	1. 結婚をしたら家庭に入る	12.6	20.0	7.2	15.0	14.3	7.5	
		2. 子どもが生まれるまで働く	21.3	25.5	18.1	25.1	20.2	16.8	
		3. 子育てを終えたらまた働く	36.4	32.0	39.7	33.7	33.8	42.9	
		4. ずっと仕事を続ける	29.7	22.6	35.0	26.1	31.7	32.9	
17	どのようになりたいか	1. 夫唱婦随型で、夫がしっかりリードしている夫婦	8.2	8.0	8.3	8.2	6.5	9.9	
		2. 夫婦ともに互いに頼りあっている夫婦	72.9	75.2	71.1	75.8	73.8	67.7	
		3. どちらかというとき妻がしっかりリードしている夫婦	4.3	7.8	1.6	3.4	5.1	5.0	
		4. それぞれが独立した生き方を尊重している夫婦	14.6	8.9	19.0	12.7	14.6	17.4	
18	将来、家庭での家事分担をどうしたいか	朝食作り	1. 妻が全部をする	17.9	20.5	15.9	17.9	20.1	15.6
			2. 妻がほとんどするが夫もたまに手伝う	41.5	42.4	40.8	42.6	42.3	39.0
			3. 妻がだいたいするが夫もかなり手伝う	18.4	17.3	19.3	18.9	14.3	22.0
			4. 夫と妻が同じくらい分担する	20.6	18.4	22.4	19.4	20.5	22.7
			5. 夫が半分以上する	0.4	0.2	0.5	0.5	0.3	0.4
			6. 夫がほとんどする	1.1	1.2	1.1	0.7	2.4	0.4
		洗濯物を干す	1. 妻が全部をする	14.9	15.1	14.8	17.1	13.3	13.5
			2. 妻がほとんどするが夫もたまに手伝う	35.3	39.0	32.4	35.8	36.5	33.1
			3. 妻がだいたいするが夫もかなり手伝う	18.1	19.0	17.4	16.1	17.7	21.4
			4. 夫と妻が同じくらい分担する	28.4	23.2	32.4	28.1	28.3	28.8
			5. 夫が半分以上する	2.1	2.6	1.8	1.9	2.0	2.5
			6. 夫がほとんどする	1.2	1.2	1.3	1.0	2.0	0.7
		夕食のための買い物	1. 妻が全部をする	10.3	9.9	10.6	9.6	12.3	9.3
			2. 妻がほとんどするが夫もたまに手伝う	27.3	27.0	27.5	27.9	26.3	27.4
			3. 妻がだいたいするが夫もかなり手伝う	22.0	21.7	22.3	22.4	19.8	23.8
			4. 夫と妻が同じくらい分担する	37.2	35.8	38.2	37.5	36.5	37.4
			5. 夫が半分以上する	2.3	4.2	0.9	1.9	3.1	2.1
			6. 夫がほとんどする	0.9	1.4	0.5	0.7	2.0	0.0
		夕食作り	1. 妻が全部をする	11.9	13.0	11.1	13.2	11.3	10.7
			2. 妻がほとんどするが夫もたまに手伝う	35.5	38.0	33.5	37.0	36.5	32.0
			3. 妻がだいたいするが夫もかなり手伝う	25.7	26.2	25.3	25.0	24.9	27.4
			4. 夫と妻が同じくらい分担する	25.4	21.1	28.7	23.6	24.6	28.8
			5. 夫が半分以上する	0.8	1.2	0.5	0.5	1.4	0.7
			6. 夫がほとんどする	0.8	0.7	0.9	0.7	1.4	0.4
		夕食後の茶碗洗い	1. 妻が全部をする	8.3	10.0	7.0	8.9	9.6	6.1
			2. 妻がほとんどするが夫もたまに手伝う	23.2	23.4	22.9	22.1	25.9	21.9
			3. 妻がだいたいするが夫もかなり手伝う	19.9	19.5	20.3	20.1	18.8	20.8
			4. 夫と妻が同じくらい分担する	39.3	34.6	43.0	40.3	36.9	40.5
			5. 夫が半分以上する	6.4	8.4	4.8	5.5	5.1	9.0
			6. 夫がほとんどする	2.9	4.2	2.0	3.1	3.8	1.8
		食後にお茶を入れる	1. 妻が全部をする	18.1	13.4	21.8	19.0	18.6	16.3
			2. 妻がほとんどするが夫もたまに手伝う	22.6	21.2	23.7	22.8	22.0	23.0
			3. 妻がだいたいするが夫もかなり手伝う	14.2	17.8	11.3	13.5	14.4	14.9
			4. 夫と妻が同じくらい分担する	37.6	34.4	40.1	36.1	37.8	39.7
			5. 夫が半分以上する	4.2	7.2	2.0	5.3	3.4	3.5
			6. 夫がほとんどする	3.2	6.0	1.1	3.4	3.8	2.5
		お風呂の掃除	1. 妻が全部をする	4.6	4.9	4.5	5.5	5.1	2.8
			2. 妻がほとんどするが夫もたまに手伝う	13.2	15.7	11.3	11.3	15.7	13.5
			3. 妻がだいたいするが夫もかなり手伝う	11.6	11.8	11.4	11.0	11.6	12.5
			4. 夫と妻が同じくらい分担する	41.7	36.1	46.0	43.9	43.0	37.0
			5. 夫が半分以上する	15.9	16.7	15.4	16.8	12.3	18.5
			6. 夫がほとんどする	12.9	14.8	11.4	11.5	12.3	15.7

資料2 ◆学年・性別集計表

質問項目			全体	性 別		学 年 別			
				男子	女子	1 年	2 年	3 年	
19	子どもが小さいころに、両親の性格が合わなかったから離婚するか	1. ぜったい離婚しない	24.0	31.8	18.0	24.8	28.0	18.7	
		2. できれば離婚しない	57.1	54.8	58.9	55.4	53.6	63.3	
		3. たぶん離婚する	15.5	11.3	18.9	17.1	15.4	13.4	
		4. ぜったい離婚する	3.3	2.1	4.3	2.7	3.1	4.6	
20	子どもがいなくなったらどうするか	1. ぜったい離婚しない	8.8	14.8	4.1	10.7	8.5	6.3	
		2. できれば離婚しない	28.6	35.3	23.3	26.5	28.9	31.3	
		3. たぶん離婚する	42.6	38.1	46.1	42.7	42.2	43.0	
		4. ぜったい離婚する	20.0	11.8	26.4	20.1	20.4	19.4	
21	将来、結婚したら、どんな暮らし方をしたいか	住まい	1. ぜったい、市街地にある便利なマンション	2.8	4.4	1.6	2.4	3.1	3.2
			2. まあ、市街地にある便利なマンション	23.2	19.6	25.9	29.8	18.9	18.0
			3. まあ、郊外にある庭つきの家	52.1	53.5	51.1	49.5	54.6	53.4
			4. ぜったい、郊外にある庭つきの家	21.8	22.4	21.4	18.3	23.4	25.4
		親との関係	1. ぜったい、若いうちは別々に暮らしたい	34.9	35.3	34.6	32.5	35.5	37.8
			2. まあ、若いうちは別々に暮らしたい	36.9	41.8	33.0	36.2	37.5	37.1
			3. まあ、一緒でもかまわない	24.8	19.6	28.7	25.2	25.3	23.7
			4. ぜったい、一緒でもかまわない	3.5	3.3	3.6	6.1	1.7	1.4
		子どもを産む時期	1. ぜったい、なるべく早く産む	15.6	12.6	17.8	16.6	16.5	13.1
			2. まあ、なるべく早く産む	48.8	47.5	49.8	50.4	48.5	47.0
			3. まあ、夫婦だけの生活を楽しみたい	29.1	33.7	25.5	28.4	27.1	32.2
			4. ぜったい、夫婦だけの生活を楽しみたい	6.5	6.1	6.8	4.6	7.9	7.8
		結婚した後の2人の姓	1. ぜったい、男性の姓	22.4	15.9	27.4	22.8	22.6	21.6
			2. まあ、男性の姓	34.5	36.3	33.2	35.8	34.9	32.3
			3. まあ、どちらの姓でもかまわない	25.3	27.9	23.2	23.8	24.7	28.0
			4. ぜったい、どちらの姓でもかまわない	17.8	19.9	16.2	17.6	17.8	18.1
		結婚した後のつきあいの異性とのつきあい	1. ぜったい、つつしみたい	4.8	6.1	3.8	4.2	4.8	5.7
			2. まあ、つつしみたい	19.6	23.8	16.2	17.4	21.3	20.8
			3. まあ、無理のない程度につきあう	56.0	55.1	56.7	58.6	57.7	50.5
			4. ぜったい、無理のない程度につきあう	19.7	15.0	23.3	19.9	16.2	23.0
		夫の昼の食事	1. ぜったい、お弁当を毎日作ってあげたい	17.9	16.5	19.0	17.8	20.2	15.6
			2. まあ、お弁当を毎日作ってあげたい	61.6	64.5	59.4	63.2	55.8	65.2
			3. まあ、外食してほしい	18.3	16.9	19.3	17.0	21.2	17.0
			4. ぜったい、外食してほしい	2.2	2.1	2.3	2.0	2.7	2.1
		妻が38度くらい熱を出したら	1. ぜったい、夫は会社を休んで世話	23.4	38.8	11.6	23.1	23.0	24.3
			2. まあ、夫は会社を休んで世話	41.7	44.4	39.6	41.3	40.2	43.9
			3. まあ、夫は会社へ行く	28.3	15.1	38.4	30.1	28.9	25.0
			4. ぜったい、夫は会社へ行く	6.6	1.7	10.4	5.5	7.9	6.8
		日曜日、会社の上司から仕事を頼まれたら	1. ぜったい、断る	3.3	5.7	1.5	3.5	4.2	2.1
			2. まあ、断る	18.3	22.9	14.8	20.3	18.7	15.0
			3. まあ、仕事に出かける	59.1	50.6	65.6	56.6	58.8	62.9
			4. ぜったい、仕事に出かける	19.3	20.8	18.2	19.6	18.3	20.0
		子どものしつけ	1. ぜったい、妻が受け持つ	1.2	2.4	0.4	1.0	1.7	1.1
			2. まあ、妻が受け持つ	8.8	12.8	5.8	11.4	7.3	6.8
			3. まあ、夫と妻とが同じように受け持つ	28.8	31.8	26.5	29.0	30.9	26.3
			4. ぜったい、夫と妻とが同じように受け持つ	61.1	53.1	67.3	58.6	60.1	65.8
22	子どもを何人ほしいか	1. いない	4.7	3.3	5.8	3.7	6.2	4.6	
		2. 1 人	6.4	6.8	6.0	7.5	5.5	5.7	
		3. 2 人	62.4	63.4	61.7	66.6	58.8	60.4	
		4. 3 人	23.8	23.3	24.1	19.7	26.8	26.4	
		5. 4 人	1.7	1.7	1.8	1.7	2.1	1.4	
		6. 5 人以上	0.9	1.4	0.5	0.7	0.7	1.4	

資料2 ◆学年・性別集計表

質問項目			全体	性 別		学 年 別		
				男子	女子	1 年	2 年	3 年
23	き、結婚する と自分の 父母と 同居 したい か	1. 同じ家に住みたい	2.4	2.6	2.2	3.3	1.4	2.1
		2. となりの家に住みたい	7.4	8.5	6.6	7.0	8.2	7.1
		3. 歩いて10分くらいのところに住みたい	51.6	43.3	58.1	52.6	55.3	46.4
		4. 遠くに離れて住みたい	38.6	45.6	33.1	37.1	35.1	44.3
24	の老後、 子どもと 同居 したい か	1. 同じ家に住みたい	5.2	7.3	3.6	7.0	2.4	5.7
		2. となりの家に住みたい	17.6	20.1	15.6	18.0	17.9	16.7
		3. 歩いて10分くらいのところに住みたい	52.1	47.0	56.0	50.4	54.3	52.3
		4. 遠くに離れて住みたい	25.1	25.5	24.7	24.7	25.4	25.3